

## 18 3rdステージの活動（主に平成26年度～27年度）

### （1）地域課題、まちづくりの目標

平成26年度からを3rdステージと位置付け、活動も一段と活発になっていった。今までの7年間の活動の成果と反省を踏まえ、新たな地域課題にチャレンジしていくことになった。当時の課題は主に次の3点であった。

- ・景観づくりの実践について、より具体的な検討を加え、実施が可能な部分から目に見える形にしていくとともに、広報や推進体制（組織づくり、ルール化など）を検討していく必要がある。
- ・平成25年12月に味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店したマイヅル味噌のみそ蔵（国の登録有形文化財。姪浜の歴史的・景観的シンボル）を今後、具体的にどう再生し、継続的に活用していくかが喫緊の課題であり、地域の総力を挙げて取り組んでいく必要がある。
- ・みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業を発掘・発信していく必要がある。

こうした状況の中で筆者らは、みそ蔵の再生・継続的活用に向けて、「みそ蔵を再び地域のシンボルに！」を目標に住民参加の様々な事業を展開するとともに、精力的な景観づくりの普及活動により、みそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築を目指していくこととした。また、次のステージに向けた姪浜のまちづくり『姪浜ネクスト』に向けて、姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組み、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイルの定着を目指していくこととした。

具体的な活動を紹介していこう。1stステージや2ndステージで開始した事業も継続していくことになり、事務局長の役割はさらに重要になっていった。

#### 3rdステージの地域課題、活動目標

- 地域課題：①景観づくりの実践に向けた意識高揚  
②味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店した、地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用  
③みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信
- 活動目標：①国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築  
②次のステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進

### （2）3rdステージの最初の総会

2ndステージの最初の定例会（平成22年4月16日）で、「まちづくり協議会の役割」「まちづくりの推進に当たっての協議会心得」などについて確認していたが、3rdステージの最初の総会（平成26年5月16日）で改めて「活動心得」について事務局長案として示した。これは、対外的な講演などで筆者が話していることであるが、3rdステージの開始に当たり改めて確認したものである。以下に当時の資料をそのまま示そう。

平成 26 年 5 月 16 日の総会で示した活動心得（事務局長案）

- ◆焦らず、怒らず、根気よくの精神で。まちづくりは、一步後退一步前進、一步前進二歩後退の繰り返し。根気よくやりましょう。（※大阪・富田林の長老の言葉）
- ◆何でも楽しくやりましょう。まちづくりに関わる人自らが楽しくなければ、長続きしません。
- ◆継続は力なり。どんなに小さな取り組みも、10年続けば立派な成果につながります。
- ◆まずは家庭、次が仕事、まちづくりのプライオリティは3番目で構いません。家庭や仕事を犠牲にしてまで、まちづくりに関わる必要はありません。しっかりした土台の上で、まちづくりに関わりましょう。（※博多部の長老の言葉）
- ◆各自のできる範囲で協力をお願いします。頭（企画を出す）、体（汗をかく）、時間（時間を惜しまず奉仕活動をする）、お金（活動資金の協力）のいずれかで協力をお願いします。
- ◆会員は十人十色です。それぞれの特技を活かして活動に参加してもらうことで、いろいろな取り組みができます。
- ◆会員の意見も様々です。まずは皆さまの意見を聴きましょう。
- ◆何事もできる方向（どうしたらできるのか）で考えましょう。いきなりできないというスタンスでは、何もできません。
- ◆よそ者、ばか者、若者の視点を大切にしましょう。特に外部からの視点は、新鮮な意見や感覚を含んでいます。それに加え今後は、高齢者、女性、子どもの視点を取り入れていきましょう。  
○今までのキャッチフレーズ「ヨソモン、バカモン、ワカモン」  
○これからのキャッチフレーズ「ヨソモン、バカモン、ワカモン+高齢者、女性、子ども」
- ◆黙っていて、誰かがまちづくりをやってくれるわけではありません。会員の一人ひとりが、姪浜の魅力資源を活かしたまちづくりの推進に向けて目標と当事者意識を持って取り組みましょう。
- ◆すべての企画において、姪浜らしさ（内容、場所など）にこだわきましょう。  
※創意工夫してマスコミに取り上げてもらえるような企画が必要
- ◆できることから始め、具体的に目に見える形で成果を示していきましょう。  
※アイデアはまちなかに溢れている。地域の実情に応じて実践していくことが大事
- ◆課題も多いですが、まちづくりの過程を楽しみながら、次世代にバトンタッチしていきましょう。

この中で、筆者が特に伝えたかったことは、「他人の意見を傾聴すること」「どうしたらできるのかを前向きに考えること」の2点である。ここで、誤解してほしくないのは「楽しく＝楽しくなければならない」ということではない。まちづくりは決して楽しいものではない。その中でも各人がやりがいを見出せばいいのである。まちづくり協議会は親睦団体ではないのである。

## 19 平成 26 年度の活動

### (1) 「ふくおか美まちチャンネル」出演

平成 26 年度の具体的な事業は、福岡県美しいまちづくり協議会が主催する「ふくおか美まちチャンネル」への出演からスタートした（5月 22 日）。福岡県からの委託を受けた男女・子育て環境改善研究所の富山さんからの依頼であった。平成 24 年度の「全国町並みゼミ福岡大会」や「景観発見&まちづくり体験体感ツアーIN 姪浜」「福岡県景観大会」での縁などもあり、筆者に依頼があったものである。

当日は NG なしの 20 分程度の収録であったが、姪浜の魅力やまちづくり協議会の活動を 15 枚の写真を使いながら、しっかり PR させていただいた。様々な場面で活動内容を発表する機会に恵まれ、その度にプレゼンテーションもうまくなっていったと思う。仕事で得た経験を地域活動に活かし、地域活動で得た経験を再度仕事に活かすという好循環にもつながっていったのではないだろうか。

ふくおか美チャンネル（2014. 5. 22 唐津街道姪浜）



「ふくおか美まちチャンネル」で紹介した 15 枚の写真

### (2) 町家談義

これは石城戸邸の駐車場をお借りして、交流会を行い地域の方々と親睦を深めたものである（7月 12 日）。協議会としての正式な行事ではないが、姪浜住吉神社の河童祭りに合わせて、日頃から協議会活動でお世話になっている地域の方々に声をかけて実施した。協議会のメンバーだけの親睦では内向きで発展性が少なく、姪浜のまちづくりや協議会の活動について関係者と食事をしながら意見交換を行い、率直な意見を聴くことが必要であるという趣旨で企画したものである。



町家談義

あいにくの雨であったが、まちづくりについて普段は話すことの少ない関係者にご参加いただき、交流を深めることができた。その中心には肥塚さんの手作りの料理が並んでいた。人通りの多い祭りの時期に目に留まる町家の一角を利用させていただいて、地域の方々と交流することは、

まちづくりへの関心を深める上で意義のあることであり、まちづくりには外（協議会会員以外）の視点も大切であるということを改めて認識させられた次第である。

### （3）阿部真也先生との再会

6月に西日本新聞社経済部の根井記者から連絡があり、秋から連載を予定している「大学の知恵を地域のものに」の一環として協議会に取材依頼があった。趣旨は福岡大学名誉教授の阿部真也先生が昭和55年に西日本新聞の地域提言シリーズ「わが町」で取り上げた地域が、その後どのように変容していったのか、当時の状況と現在を比較しつつ、将来に向けたまちづくりの方向性を大まかに描ければというものであった。

根井記者から連絡があった時は、姪浜を取材していただける嬉しさとともに、阿部先生に久しぶりにお会いできるという期待感と楽しみがあった。「福岡都市科学研究所配属」の欄で紹介したが、筆者は平成13～14年度に「福岡大都市圏における広域連携のあり方に関する研究」を担当。その研究責任者が阿部先生であった。阿部先生とは、イギリスやドイツの調査に同行させていただき、その頃のことも思い出した。イギリスに行く機会があっても、なかなかコッツウォルズやエジンバラ、シェイクスピアの生誕地であるストラトフォード・アポン・エイヴォンを訪問することは少ない。この時の研究成果は、筆者の中ではまちづくりや景観づくりに脈々と生き続けている。



福岡都市科学研究所の調査で阿部先生に同行（ハノーバー）

阿部先生と久しぶりに再会したのは、8月のお盆前だった。福岡都市科学研究所卒業後は道端で時々お会いすることはあったが、ゆっくりと話したのは初めてであった。先生は大変お元気そうで、姪浜の歴史や商店街の活性化などについて意見交換させていただいた。職場を離れても、地域づくりが縁で再会したことになる。筆者が姪浜で頑張っていることが、阿部先生との再会につながったのであろう。研究機関や市役所で培った人的ネットワークは、地域づくりの中でしっかり活かされているのである。

（平成26年）12月8日 月曜日

こたま 6

## 大学の知恵を地域のものに

福岡大学名誉教授 阿部真也さん

福岡市西区の姪浜地区で、現在活動している「唐津街道再生まちづくり協議会」のメンバーに話を聞いた。その後、街道沿いの商店街が「ハノーバー」の競争を余すまじく、川崎保会長、肥塚 儀が「わが町」の提言があった80年前後、商業近代化計画で江戸時代の唐津街道は、現在の北九州市から宗像 市、福岡市を経て佐賀 市、福岡市に至る道として、2000年、姪浜地区の唐津は街道の宿場町として、北側に大型商業施設の「ドンキホーテ」が、南側に「ヨコバナスモール」が、さらに「マリノアシティ」が、4年には姪浜で石炭の採掘 oun」と「マリノアシティ」

聞き書きシリーズ

### 新田パワーで町再生

福岡が相次いで開業、商 のきっかけは、05年の福岡 歩きマップを作成したり、うと取り組んでいるのこ 旧町名を記したラブレットと、また「大生が街注 掲示したりしています。ま どのようにはないかと希 望を語ります。 私は、姪浜の位置付けを 「副都心」とするの がいいのでは、と思います。福 岡市の統計では、姪浜地区 の商業販売額は、現在の副 都心の西新地区を上回って います。西新地区は、福岡 協会の一連の活動が評 タワーなどがある百道街 地区を含め、新都心と呼 ぶ方がよさそうです。姪浜 を中心に、古い町並みの再 生と、九州大や大型商業 施設という新田 づのハバ ーを生かして、地域の点 性が高まれば、と感 じ、興味を持ってもら います。（聞き手 根井輝雄）

福岡が相次いで開業、商 のきっかけは、05年の福岡 歩きマップを作成したり、うと取り組んでいるのこ 旧町名を記したラブレットと、また「大生が街注 掲示したりしています。ま どのようにはないかと希 望を語ります。 私は、姪浜の位置付けを 「副都心」とするの がいいのでは、と思います。福 岡市の統計では、姪浜地区 の商業販売額は、現在の副 都心の西新地区を上回って います。西新地区は、福岡 協会の一連の活動が評 タワーなどがある百道街 地区を含め、新都心と呼 ぶ方がよさそうです。姪浜 を中心に、古い町並みの再 生と、九州大や大型商業 施設という新田 づのハバ ーを生かして、地域の点 性が高まれば、と感 じ、興味を持ってもら います。（聞き手 根井輝雄）

西日本新聞に掲載された記事  
（平成26年12月8日）

#### (4) 福岡市職員技術研究発表会

これは、福岡市技術職員が各々の専門分野で携わった研究や成果を発表し、各専門分野の技術に触れる機会を設けることにより、技術職員の資質向上を図ることを目的に、毎年8月頃に実施されているものである。

筆者は、市役所の業務の枠を超えて地域に飛び出し、建築技術職員の専門性・企画力を存分に発揮し、地域のまちづくりを牽引し、姪浜を全国にPRしている建築技術職員のまちづくりへのこだわりと熱い想いを伝えた。タイトルは「地域の誇り&まちなみ育てプロジェクトIN姪浜 ～建築技術職員の専門性を活かした地域貢献活動～」である。この中で、建築技術職員として特に工夫したことは次のとおりである。

##### 建築技術職員として特に工夫したこと

- 継続的な活動を支えるのは資金  
⇒全国区の数十倍の助成金に応募・採択
- 多彩な活動を支えるのは十人十色の会員  
⇒職業、特技、考え方の異なる多彩なメンバー構成を活かした活動内容  
(各会員の多彩なノウハウ・スキルの活用)
- マスコミを通じた地域への情報発信  
⇒マスコミに記事にしてもらえるような活動内容の工夫
- 活動における姪浜らしさへの徹底したこだわり



こういう場を通じて姪浜の魅力や協議会の活動状況を伝えていくことで、多くの福岡市職員に姪浜という地域に興味を持ってもらうことも筆者の狙いなのである。こうした人前での発表は、10月の建築士会まちづくり賞のプレゼンテーションでも役立つことになった。

#### (5) 法被作成

4月の定例会で協議会の長老の西嶋功さんから法被を作ったらどうかという提案があった。全員賛成ということではなかったが、希望者のみ購入という方向でまとめ、5月の総会で承認後、作成に向けて動き出すことになった。デザインは会員の佐伯さんをお願いし、いくつかの案の中から一つの案に絞り込み作成に入ることとなった。作成費は1着あたり11,000円であったが、協議会から5,000円の補助を出すようになり、個人負担は6,000円であった。

法被が出来上がったのは9月中旬であり、お披露目は9月20日の「登録文化財 みそ蔵特別公開」であった。評判は上々であった。この法被は協議会の各種イベントだけでなく、関連事業などでも着用し、姪浜や協議会をPRすることになった。筆者もこの法被を着て様々な場面でプレゼンテーションを行った。協議会設立から6年半が経ち、協議会の認知度も向上してきた時期であり、効果的な法被作成であった。もう少し早く作っていても良かったかも知れない。



まちの案内所の前で記念撮影



「日本建築士会連合会」まちづくり賞表彰式

### (6) 登録文化財 みそ蔵特別公開

マイヅル味噌の建物は、江戸時代後期に建てられ、酒蔵→飛行機の部品工場→みそ蔵と様々な形で活用されてきたが、平成 25 年 12 月に味噌の製造場としての約 1 世紀の役割を終えて閉店した。

このみそ蔵は、姪浜の歴史的・景観的シンボルであり、地域のまちづくり・景観づくりに欠かせない重要な建物である。筆者らは、地域のシンボリックな空間を残し、何らかの形で活用していきたいと考え、所有者の協力を得て平成 26 年 9 月から定期的に特別公開を実施した。平成 27 年 3 月までに 7 日間公開したが、約 1,500 人の方にご来場いただいた。来場者の関心も高く、「なつかしい味噌の香りがする」「地域のシンボルとしてぜひ残していただき、何らかの形で活用してほしい」などの声を多くいただいた。

また、公開に合わせ「姪浜展」「トークショー」「ワークショップ」「みそ蔵コンサート」などを開催した。トークショーでは、姪浜港に住んで 18 年になるオランダ人のヤップ夫妻に「ヨットで訪れた 55 ヶ国の港から福岡、そして姪浜を選んだ理由」などについて話していただいた。「美しい海と山に囲まれた福岡が好き」「治安もよく、人々も温かい。いつかは定住を考えているほどこのまちが好き。姪浜最高」という言葉に参加者は感激されていた。



みそ蔵特別公開



姪浜展



トークショー



ワークショップ

### (7) とっておきの姪浜！

平成 19 年度から実施している各種イベントも年々充実してきた。その根底にあるのは「姪浜らしさ」へのこだわりであるが、平成 26 年度はさらにチャレンジしていくことになった。

その代表的なものが、平成 26 年 9 月に実施した「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」である。これはまち歩きとマリノア遊覧船「ゆーみんトマト」による博多湾回遊を組み合わせたガイドツアーで、従来のまち歩きに加え、博多湾から姪浜周辺を眺め、歴史解説を行うことで、海との関わりの深い姪浜の歴史をより知っていただくことができたのではないかと思います。



遊覧船ツアー

また、平成 27 年 3 月には景観歴史発掘ガイドツアーの一環として、「着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き」を実施した。唐津街道の趣のある町並みを着物で散策しながら、まちの歴史や景観を学び、伝統文化に触れてもらうことができたと思う。光福寺や万正寺、観音寺、姪浜住吉神社の満開の桜に参加者は大変喜んでいて、沿道の皆さまも美しい着物姿に魅了された様子で、「着物の似合うまち・姪浜」をアピールできた。

この他にも、恒例となった「歴史散策と桜の名所巡り」「子どもまちなみ探検隊」などを実施し、姪浜らしさを全面的に PR した。こうした小さなチャレンジの積み重ねが「姪浜まち旅プロジェクト計画」へとつながっていくことになった。



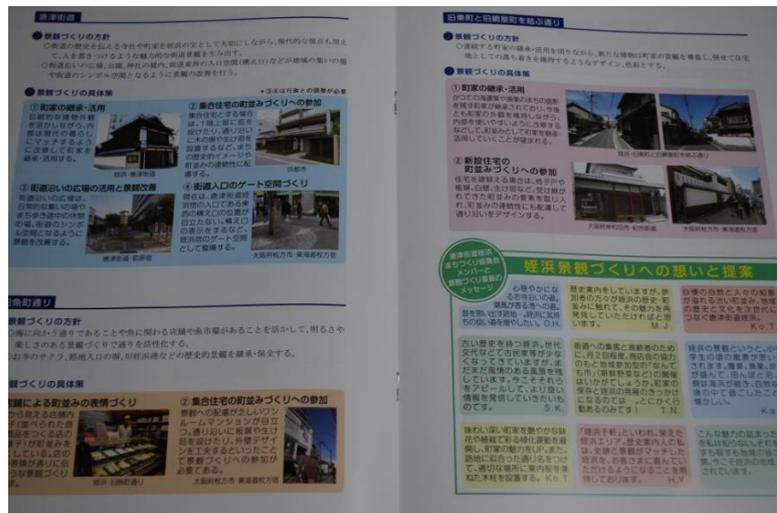
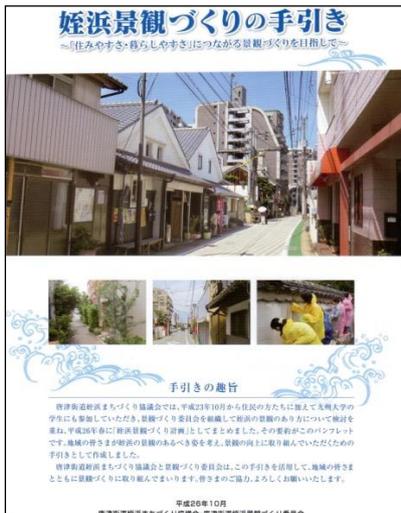
着物でそぞろ歩き



子どもまちなみ探検隊

### (8)「姪浜景観づくりの手引き」発行

平成26年3月に策定した「姪浜景観づくり計画」の内容を地域の方々に広く知っていただき、活用していただきたいと考え、それをわかりやすく示した「姪浜景観づくりの手引き」を10月に発行した。まちづくり協議会と景観づくり委員会では、地域の集まりでの出前講座やみそ蔵でのパネル展などを開催し、この手引きを活用して地域の方々とともに姪浜ならではの地域特性を活かした景観づくりに取り組んでいきたいと考えていたが、当時の協議会の体制では難しく、活用されていないのが現状である。



姪浜景観づくりの手引き

### （9）建築士会「まちづくり優秀賞」受賞

平成25年10月にNPO日本都市計画家協会賞「日本まちづくり大賞」を受賞したが、今回は（公社）日本建築士会連合会のまちづくり賞にチャレンジした。この賞は、より身近になった市民まちづくりのなかで、建築士及び建築士会としての専門性をいかに発揮し、見事にその役割を果たしてきた活動を支援するとともに、他団体、地域との連携を強化した地域まちづくりのさらなる発展に資するため、優れたまちづくり活動などの実績を評価・表彰するものである。

筆者は4月の募集開始からすぐに書類作成に入り、入念に準備を進めていった。当協議会の取り組みは、地道で多彩な活動が特徴であるが、アピール感にやや欠ける印象は否めず、そこを審査員にどうアピールするかに苦労した。6月に応募書類を作成し提出。第一次選考通過の通知と第二次選考の案内が来たのは8月上旬であった。

審査は第一次選考と第二次選考に分かれており、第一次選考を通過した7団体が、第二次選考会で公開プレゼンテーションに臨むことになる。第二次選考会当日（10月23日）に第一次選考の審査過程を記した資料が配布された。それを見ると、特に突出した団体はなかったが、当協議会は3～5番手あたりだったと思う。賞金10万円をいただけるのは上位3団体であり、筆者はプレゼンテーションにかけることとした。今回も限られた時間でのプレゼンテーションであり、トータルな取り組みが売り物の当協議会としては焦点を絞るのに苦労したが、「建築士&公務員」として地域のまちづくりに情熱を持って取り組んでいることをアピールした。

全団体のプレゼンテーションが終了した後、発表者が前のテーブルに並んで審査員の質問を受けることになった。筆者も数名の審査員から質問を受け的確に答えていたが、まだ3位以内に入る自信はなかった。もう1問ぐらい質問して欲しいと思っていた矢先に、公務員である審査員から「業務の枠を超えて、地域に飛ぶ出す公務員として頑張っていること」を最大限に評価していただき、これが決め手となり大賞に次ぐ優秀賞につながったのではないかと思う。「建築士&公務員」として浜浜のまちづくりへの関わり方が大きく評価されたことになる。公務員である審査員からは「大塚さんは今後も放し飼い職員、固有名詞のある役所職員として頑張してほしい」という審査講評が今でも強く印象に残っている。



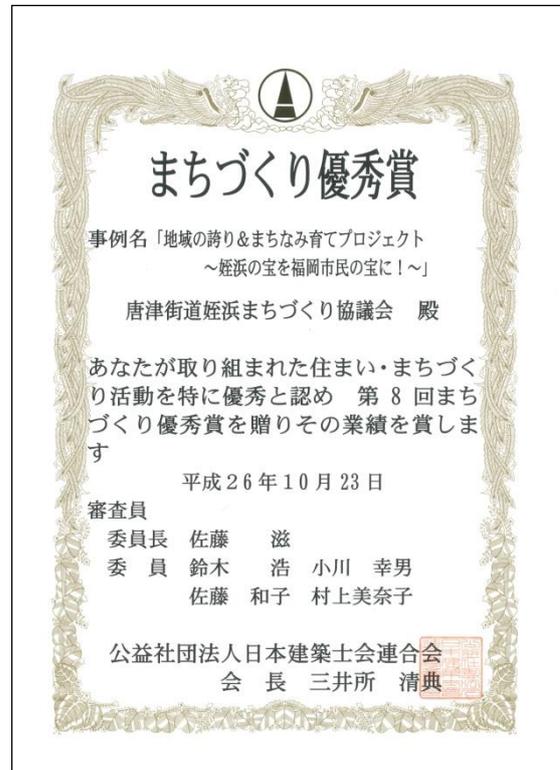
公開プレゼンテーション

筆者は第二次選考会当日に表彰を受け、翌日の建築士会連合会の大会にも出席し、そこでも受賞報告をしていただいた。その時に通路を挟んで隣の席に座っていたのが、太田国土交通大臣の

代理として出席されていた杉藤大臣官房審議官であり、後に筆者が耐震関係の業務で大変お世話になることになった。これも何かの縁であろうか。

#### 当協会に対する審査講評（抜粋）

- まさに建築士が中心となって行政と手を組み、住民を巻き込んで、地域の持っている固有の歴史を掘り起こし、住民に共感を与え、誇りにまで昇華させている。その過程は緻密で、例えば子どもたちへの景観教育などは、まちなみ探検隊にとどまらず、壁面の落書き除去などの実体験を取り入れ、将来のまちづくりへの担い手づくりまで目論んでいる。
- よそ者の建築士が活動し、景観形成まで手がけるという活動。その中に自治体の職員もいたということ。地域活動に役人が主体的に参加することは立場上難しいところがあり、地域の個性を大切にしたいという強い思いを持つ職員が「放し飼い職員」として果たした役割も大きいと感じた。今後とも、固有名詞のある役所職員として頑張ってもらいたい。
- 行政職でありながら建築士としての立場で地域に貢献する姿勢が感動を与え、優秀賞となった。



つかの間の休日(福島県郡山市)

## コラム9 宗像剛氏との再会

建築士会まちづくり賞の受賞は筆者には特別の意味がある。今回の建築士会連合会の全国大会は福島県郡山市であった。筆者は平成25年の時点でこの情報入手し、今回（平成26年）のまちづくり賞への応募を考えていた。それは鴻池組時代の知り合いである宗像剛氏（前掲）に久しぶりにお会いしたかったからである。宗像さんが経営する会社の名前は聞いていなかったが、「郡山市宗像」で検索すると「八光建設の宗像社長」であることがすぐにわかった。

筆者が宗像さんへ連絡を入れたのは、第一次選考を通過した旨の連絡があった8月上旬である。「10月に郡山に行くのでぜひお会いしたい」旨のメールを入れた。翌日に宗像さんから歓迎しますという返信があった。実は、筆者は7月に出張で福島県喜多方に行く機会があり、その時に会うこともできたが、晴れの場で再会したいという筆者の想いは7月再会ではなく、既に10月再会に向けられていたのである。

第二次選考会が終わり表彰を受けた後、宗像さんが選考会場まで迎えに来てくれていた。28年振りの再会を喜び合った。しかし、鴻池組時代に体重が約85kgあった筆者のイメージから遠くかけ離れており、すぐに筆者だと認識できなかつたらしい。再会した時の筆者の体重が63kgだからやむを得ないかも知れない。

その後いろいろ会話をする中で、宗像さんも「NPO 郡山アーバンデザインセンター」の理事として、地域のまちづくりプロジェクトに関わっていることがわかった。このプロジェクトには、東京大学の北沢猛先生（故人）や出口敦先生も関わられており、ここでも不思議な縁を感じた。筆者も、北沢先生が横浜市の都市デザイン室長時代にシーサイドももちを案内することもあったし、筆者が横浜に視察に行った時にも大変お世話になった。出口先生には都市景観室時代や都市計画課時代、そして姪浜のまちづくりでもお世話になった。福岡と郡山は遠く離れているが、人はいろいろなところでつながっているのだと感じたところである。

### (10) 執筆

平成25～26年度にかけて全国的な賞を受賞することになり、執筆依頼も入るようになった。まずは、公務員の読者が多い月刊誌「地方自治職員研修」の「進行形！景観まちづくり」というコーナーで「歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり」というテーマで執筆（B5版3ページ）させていただいた。

内容は「姪浜と私」「宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～」「活動のきっかけとねらい、協議会の体制」「活動内容」「取り組みのポイント～人を活かす、資源を活かす～」「地域内外からの反応・反響」「自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！」「今後の展望」ということで、自治体職員としての業務の枠を超えた取り組みをコンパクトにまとめた。この中で、筆者は「私はこの活動に業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく公務員冥利に尽きます。」と述べている。

また、建築士会まちづくり賞の受賞に伴い、会誌「建築士」にも執筆した（A4版2ページ）。テーマはプレゼンテーション時と同じ「地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～」。内容は「地方自治職員研修」と同じようなものであるが、「建築士&公務員」

としての取り組みを紹介した。

この中で、筆者は「私のような一建築士や一公務員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。建築士として様々な形で建築に携わっている読者の皆さま方も、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上し、それを自分自身にフィードバックすることで今後の業務や定年後の生活にも役立つと確信しています。」と述べている。

**進行形！景観まちづくり**

歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり

唐津街道景観まちづくり協議会 大塚政徳 事務局長

**経浜と私**

平成17年3月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となりました。私の住む経浜でも多くの町家や寺社が被害を受けました。被害を受けて改めて気付くというのは残念ですが、しかし、「経浜にはこんなに素晴らしい歴史的資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2年後にまちづくり協議会を立ち上げました。私が40歳の時です。

それまで私は福岡市職員として長く景観行政に携わっていましたが、自分が住む地域のことはあまり関心がありませんでした。それからは今までの20年間を取り戻すかのように「経浜の宝を福岡市民の宝に！」を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただきました。30歳代後半までは、職場でも「セブンイレブン（朝7時から夜11時まで）」と言われるぐらいに働きましたが、今後は、はやりの二刀流ではありませんが、地域への恩返しを込めて、「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたくと思っています。

本稿で紹介するのは、福岡市職員でもある私が景観行政の知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域の景観づくりに取り組んでいる事例です。まちづくり事例としてだけでなく、読者の皆さまの今後の役所生活の参考にもなれば幸いです。

**宝のまち・経浜～経浜の歴史と魅力**

経浜は、人口150万人都市・福岡市の西区の中心的な地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいがちな経浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこたぐさんの「よかとこ」を発見することができます。その中には私たちの先人たちが受け継いできたものもあり、また、その上に新たに追加されたもの、生み出されたものもあります。

先人たちが受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、経浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、経浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景です。

このように経浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、区画整理によって新しく生まれ変わった経浜駅周辺と、海沿いのマリノアシティの間にあって、はつんと取り残されたように歴史的な環境が残っている地域があります。ここが私たちの主な活動地域で、宿場町、商人町、漁師町、寺町の4つの顔を備えた全国的にも珍しいまちです。その中央を東西に走る唐津街道を中心に、数多くの寺社や古い町家、路地などが残り、今でも街道の名残を感じさせる町並みが継承されています（写真1）。

**写真1：街道の名残を感じさせる経浜の町並み**

地方自治職員研修 2015. 1 37

第8回 まちづくり賞 結果発表

**まちづくり優秀賞**

地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト  
～経浜の宝を福岡市民の宝に！～

受賞団体 福岡 唐津街道経浜まちづくり協議会  
大塚政徳 唐津街道経浜まちづくり協議会 事務局長

**宝のまち・経浜 経浜の歴史と魅力**

経浜は、福岡市西区の中心的な地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいがちな経浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこたぐさんの「よかとこ」を発見することができます。その中には私たちの先人たちが受け継いできたものもあり、また、その上に新たに追加されたもの、生み出されたものもあります。

先人たちが受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、経浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、経浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景です。

このように経浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、その魅力が地域住民にほとんど認識されていませんでした。また、平成17(2005)年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展による町家の減少、マンションや駐車場の増加などにより、地域固有の歴史的景観が失われつつあります。

このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で何が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がった筆者の建築士が中心として、平成19年3月に「唐津街道経浜まちづくり協議会」を立ち上げました。当初は10名程度のメンバーでスタートしましたが、今では協力会員を含め60名のメンバーで「よかとこ」を、また、若者の視点を大切にして、「経浜の宝を福岡市民の宝に！」を目標に、経浜ならではの多様な魅力を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

**継続的で多様な活動内容**

協議会は平成19年の立ち上げ以降、スタッフアップしながら活動を展開しています。

1stステージ(主に平成19年度～)

「地域の魅力の再認識と地域内外への発信」を目標に、まち歩きマップや互換の発行、まちづくり活動拠点の設置等による経浜の見どころ・活動の情報提供や、景観歴史発見ガイドツアー、国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート、歴史ある社での灯明コンサートなど多様なイベントを実施しています(写真1)。

2ndステージ(主に平成22年度～)

「地域協働のまちづくり計画の策定」を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元美」経浜計画や景観づくり計画の策定を行っています。また、「景観まちづくりの実践と経浜ブランドの構築」を目標に、町家再生の実践、旧町家表示板の設置、経浜ブランドや経浜町家の認定(写真2)などの活動を展開し、目

に見え形でもまちづくりの効果を伝えています。最近では、子どもまちなみ探検隊、子ども落書き消し隊など次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます(写真3)。

3rdステージ(平成26年度～)

「国の登録文化財のみそ蔵を中心とした経浜のまちなみの個性の再構築」を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに(写真4)、平成25年末に味の製造場としての約1階の役割を終えて閉店した旧マイルド味噌の再生・歴史的活用に向けた活動を展開中です(写真5)。

このように、まちづくりの各段階に応じた多様な活動を牽引しているのが、私をはじめとした数名の建築士です。全国どこへ行って同じような町並みの形成が進む中で、地域に根ざっている身近な魅力資源を掘り起こすことが、経浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながるかと考えており、建築士としての専門性を存

**写真1：みそ蔵コンサート**

2 Kenchikusha 2015.3

月刊「地方自治職員研修」2015年1月号

日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号

「参考資料4 進行形！景観まちづくり～歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり～」

(月刊「地方自治職員研修」2015年1月号)

「参考資料5 地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト～経浜の宝を福岡市民の宝に！～」

(日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号)

(11) 都市景観大賞現地審査

平成26年末に申請していた「都市景観大賞(景観教育・普及啓発部門)」の現地審査を3月9日に受けることになった。現地審査は書類審査で上位に入った団体が受けることになっており、いい位置につけていたと思われる。

現地審査に来られたのは、審査委員の卯月盛夫氏(早稲田大学教授。建築家、都市デザイナー)である。卯月先生はアーバンデザインの分野で有名なシュトゥッツガルト大学大学院に留学され、シュトゥッツガルト市やハノーバー市の都市計画局を経て帰国。世田谷区都市デザイン室主任研

究員、世田谷まちづくりセンター初代所長をされるなど、都市デザインの権威である。筆者がシュトゥツガルトに2回視察に行った時には、卯月先生の著書を参考にさせていただいた。憧れの先生との対面となった。

現地審査ではまず、マイヅル味噌のみそ蔵で協議会の取り組み状況をパワーポイントで説明。先生からは「なぜ、これほど多彩な事業を継続できるのか、他の審査委員からも聞いてきてほしいと言われている」などいくつか質問があった。先生が一番関心があったのは、活動資金と人材だったのでないだろうか。

その後、時間の許す限り地域内を案内。良い所も気になる所も包み隠さず見ていただいた。その場所での活動写真や今昔写真を見てもらうことで、より効果的な説明ができたと思う。福岡市の職員が都市景観行政の経験を活かして、業務外でも地域のまちづくりに関わっていることを一番評価してくれたことが、先生との会話の中でもわかった。こうして現地審査も滞りなく終了し、5月末の審査結果の発表を待つことになった。

## 成果例①マスコミ掲載⇒地域への情報発信



現地審査では、パワーポイントや新聞記事などで多彩な活動を PR

### (12) 姪浜ネクスト始動

次のステージに向けた姪浜のまちづくりを地域の方々といっしょに考えていくため、「姪浜ネクスト」を3月21日にスタートした。これは、福岡市が推進する「福岡ネクスト」の姪浜版で、みんなの想いをひとつにして、姪浜の多彩な「よかところ」を活かしたまちづくりの実現に向けて取り組もうとするものである。

第1回目の放談会では、これまでの活動を振り返りながら、「伝えていきたいこと」「問題のあること」「これからやるべきこと」について、いろいろな意見やアイデアを出し合った。



「姪浜ネクスト」に向けた最初の放談会

### 平成 26 年度の振り返り

平成 26 年度も上記のような多彩な事業を展開してきた。仕事も忙しい時期ではあったが、事務局長として協議会の活動を牽引してきた。忙しい合間にも 2 回、福島県に行く機会に恵まれた。1 回目は市役所の研修で喜多方、会津若松、大内宿を訪問、2 回目は建築士会まちづくり賞の関係で郡山を訪れた。前述の宗像さんには郡山で、姪浜でお世話になった石神さん（九州大学卒、当時は都市計画協会に出向中）には喜多方でお会いすることができた。人とのつながりを実感できた 1 年でもあった。



会津さざえ堂



会津大内宿

さて、この頃の筆者の気持ちを書いたものがあるので、これを紹介して平成 26 年度の締めくくりとしたい（コラム 10）。

## コラム 10 課題に取り組むこと＝まちづくりの楽しさ

当協議会設立の発端となった福岡県西方沖地震から早くも10年が経過しました。住吉神社の鳥居や門が倒れたり、町家の屋根が崩れ落ちたりした映像が蘇ります。「多彩な歴史や魅力を活かしたまちづくりを進めたい」と考え、協議会を立ち上げたのは、それから2年後です。当時、知人から「姪浜はまちづくり不毛地」と揶揄（やゆ）されたこともありましたが。

しかし、私はこの8年間、だれよりも精力的に活動し、姪浜の魅力や活動を地域内外、そして全国に発信してきました。その成果はマスコミへの登場回数に表れ、去年は30回近くになりました。一市民団体としては、その数は福岡市内でも突出しています。これは、姪浜らしさにこだわった多彩なまちづくり活動によるものですが、姪浜という地域そのものに魅力がないとマスコミは取り上げてくれません。

今後も、いろいろな課題に取り組むことを楽しみながら、粘り強く活動を進めていきたいと考えています。そして姪浜が「まちづくり先進地」と呼ばれるようになっていけばいいなと思っています。それだけの可能性を姪浜は持っているのです。

(平成27年3月31日発行の「かわら版第8号」より)



かわら版やマスコミを通じた情報発信は、他都市などからの視察や研修の増加につながっていった。

## 20 平成 27 年度の活動

実質的には筆者の活動の締めくくりの年度である。活動を推進しながらも、悩みの多い年であった。いろいろな想いを込めて振り返りたい。

### (1) 総会

平成 27 年度の事業計画については、既に平成 27 年 3 月と 4 月の定例会で案を示し議論を重ねてきた。かなり具体的な計画であり、今まで以上に詳細な計画であった。5 月 30 日の総会でも特に意見はなく承認された。この事業計画に沿って各事業が進んでいくことになった。

また、総会終了後に、博多祇園山笠振興会前会長（現顧問）の瀧田喜代三氏に山笠や地域づくりについて講演していただいた。瀧田さんには、3 月に開かれた市役所の永野間先輩の退職祝いの時にお願ひし内諾を得ていた。瀧田さんは御供所まちづくり協議会会長として、また山笠振興会会長として素晴らしいリーダーシップを発揮するとともに、新しい視点で改革に取り組みされていた。参加した会員には大変勉強になったはずである。

その後、瀧田さんを囲んでの懇親会を御園で行い、美味しい魚料理とお酒で大変盛り上がった。瀧田さんは特にトンマを気に入られていた。最後の締めは瀧田さんの博多手一本。瀧田さん、ありがとうございました。



瀧田さんの講演会



瀧田さんの本場の博多手一本

### (2) 「都市景観大賞（景観教育・普及啓発部門）」受賞

3 月に現地審査を受けていた都市景観大賞（景観教育・普及啓発部門）の結果通知が 4 月 15 日に届いた。当協議会の「地域の誇り & まちなみ育てプロジェクト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！」が、最高賞の「大賞（国土交通大臣賞）」を受賞することとなった。

景観教育・普及啓発部門は平成 23 年度から実施されており、大賞（国土交通大臣賞）は福岡市内では最初の受賞となった。福岡市では平成 8 年度にシーサイドももち地区が都市景観 100 選（国土交通大臣賞）に選定されているが、これに続く快挙となった。

現地調査で姪浜を訪れた審査委員の卯月盛夫氏（早稲田大学教授。建築家、都市デザイナー）は、審査講評の中で「行政や一部の既存団体に偏らず、自発的な市民活動として、これほどまで幅広い景観まちづくり活動を継続的に進めてきたことは、極めて類い稀な事例であり、都市景観大賞にふさわしいと評価できる」と最大級の評価をいただいた。

6 月 12 日の受賞式には、川岡会長と太田景観づくり委員会委員長に出席してもらった。筆者も出席する予定であったが、議会前ということと、「空家等対策の推進に関する特別措置法」が 5 月

末に完全施行されたばかりで市民からの相談が増え、その対応もあり出席できなかった。受賞式では、川岡会長と同じ壇上に、都市空間部門で大賞を受賞された「大手町・丸の内・有楽町地区」の NPO 大丸有エリアマネジメント協会理事長の小林重敬先生も上がられていた。わが国の都市計画の重鎮である小林先生と当協議会の川岡会長が同じ壇上に並ぶことは、以前ならとても考えられないことであり、協議会が力をつけてきた証でもあった。



都市景観大賞受賞式

### （３）都市景観大賞受賞祝賀会

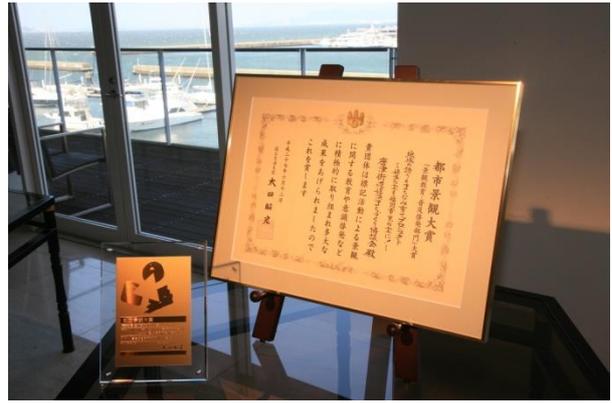
都市景観大賞受賞祝賀会については、4月の定例会で協議。会場については、筆者はマイヅル味噌のみそ蔵を第一候補に考えていたが、この時は既にみそ蔵の水道が使えないことが判明し、やむなく他の会場を探すことになった。そこで浮上したのが、ホテルマリノアリゾート福岡である。お祝いの会場としては文句なしであるが、逆に派手な印象を与えないかという危惧もあった。いろいろ議論はあったが、5月3日の事務局会議で決定し、具体的に役割分担を決めて準備を進めていくことになった。筆者も会場の段取り、参加料、演出、出席者選定、当日のスケジュールなど主体的に携わった。

6月28日の祝賀会当日は、普段から協議会の活動に協力いただいている100名を超える皆さまにご出席いただき、受賞を祝っていただいた。会場も博多湾に面した姪浜にふさわしい場所である。天気も筆者らを祝っているかのような青空であった。海と空の青色、海辺の風景こそが何よりも素晴らしい。祝賀会の冒頭に7分程度であったが、筆者が活動報告をさせていただいた。こういう晴れの場で活動をPRできることを嬉しく思った。来賓祝辞では、市役所の中園副市長からも祝辞をいただき、筆者のことを紹介していただいた。身に余るお言葉で大変恐縮した次第である。

祝宴では、いわつなおこ氏にアコーディオンのミニ演奏をしていただいた。彼女の演奏は、協議会としては「みそ蔵」「御園」に続き3度目であり、晴れの場にふさわしい明るい演奏である。みんなの笑顔が溢れる楽しいひとときであった。2時間という限られた時間の祝賀会であったが、「地域の総力を挙げて、姪浜ならではのまちづくりを推進していきましょう」ということで閉会。出席いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



祝賀会



表彰状と表彰盾

#### (4) 夏の遊覧船イベント

今までは暑い時期のイベントは避けていたが、平成 27 年度は「遊覧船ゆーみんトマト」を活用した 2 つのイベントを企画・実施した。一つは 8 月 8 日の「遊覧船&夏休み親子まちなみ探検隊」で、海や港との関わりの深い姪浜の魅力を再発見するガイドツアーである。魚市場の競りやクルーザー等を見学した後、遊覧船に乗船し博多湾から福岡のまちなみを楽しもうというものであった。猛暑の中であったが、約 20 名の親子が参加。ヤップさんの双胴船にも乗船させていただき、参加者は大喜びの様子であった。



2つの遊覧船イベントの広報ちらし



遊覧船&夏休み親子まちなみ探検隊

もう一つは 8 月 15 日の「遊覧船から見る福岡のまちなみと花火大会」で、姪浜の恒例行事となったお盆の花火大会を博多湾から楽しもうというものである。普段見ることのできない幻想的な景観は、姪浜ならではのものである。多くの参加申込みをいただき、イベントの数日前に申込み

をお断りするほど大盛況であった。天気にも恵まれ、参加した皆さまに大変喜んでいただいた。アルコールやおつまみの手配などもあり朝から準備が大変であったが、参加者した皆さまの笑顔が苦勞を吹き飛ばしてくれた。こういう達成感こそが地域づくりの楽しさである。



遊覧船から見る福岡のまちなみと花火大会

これらの二つのイベントについては、今回の成果を受け毎年の行事として定例化していく予定であったが、平成 27 年 11 月末をもって遊覧船ゆーみんトマトの運航が休止された。「姪浜まち旅プロジェクト計画」の一つのプランが消滅することになり、残念に思う。

#### (5) 都市景観大賞受賞による視察研修受け入れ

6 月の都市景観大賞受賞の効果であろうか、国や県からの視察研修を受け入れることになった。一つは、9 月 5 日の「地域づくりネットワーク福岡県協議会福岡ブロック会議」である。この時の会場は法蔵院で、福岡都市圏の団体や自治体職員約 30 名が参加。1 時間の活動報告と意見交換の後、75 分間のまち歩きを行った。その後の懇親会を含め、県内各地で地域づくりに取り組んでいる方々と有意義な時間を過ごすことができた。



地域づくりネットワーク福岡県協議会福岡ブロック会議

また、11 月 18 日には九州地方整備局主催の「景観実務研修会」が姪浜で開催された。この時は、九州各県の自治体職員約 50 名に参加していただいた。活動報告の後にまち歩きを行い、その後、当協議会のアドバイザーでもある高山美佳氏（地域デザイナー）に講演していただいた。

姪浜をフィールドにこうした視察研修を開催していただくことをとても光榮に思うが、他の団

体の取り組みについて、むしろ筆者らが見習うことの方がまだまだ多いと思う。当協議会にとって、受賞はあくまで通過点であり、謙虚な姿勢でさらに活動を推進していく必要がある。



九州地方整備局「景観実務研修会」

#### (6) 姪浜ネクスト準備会

秋には多彩なイベントを企画していたが、その合間を縫って「姪浜ネクスト準備会」をスタートさせた。3月末に「姪浜ネクスト」を打ち出したが、準備会にこぎ着けるまでに半年近くかかっていた。協議会内部でも何をやるのかわかりにくいという議論はあったが、姪浜を取り巻く環境の変化に対応していくためには、当協議会だけでなく、地域内のいろいろな関係団体と連携して取り組んでいく必要がある。

9月～11月にかけて3回の準備会を行い、「TEAM 姪浜ネクストの位置付け」「具体的な実践活動」「運営体制」などについて意見交換を行い、イメージを共有し、平成28年3月の設立に向けて動き出すことになった。

#### 準備会設立の背景・趣旨

- (1) 唐津街道姪浜まちづくり協議会の『都市景観大賞（景観教育・普及啓発部門）』の受賞を次のステージ（実践活動）につなげる。
- (2) 地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の閉店  
⇒「ポストみそ蔵」を見据えた新たな取り組みの必要性
- (3) 歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組みとのタイアップ
- (4) 姪浜を取り巻く新たな課題や動向に対応した、地域としての取り組みの必要性



- 姪浜ならではの多彩な魅力資源（歴史、寺社、町家、路地、海、食など）を活かした具体的な実践活動
- 地域の総力を結集（各団体の垣根を超えた TEAM 姪浜としての取り組み）



第1回準備会

### 具体的な実践活動のイメージ

#### (1) 景観づくりの地域への普及及び実践活動

- ①「景観づくりの手引き」を活用した普及活動
- ②目に見える形での実践活動（地域でできることから実践）  
⇒優先順位、効果、予算措置状況などを踏まえ対応
- ③福岡市における歴史的景観保護に向けた取り組み  
⇒地域としても、行政と協働して具体的な景観づくりのルールを策定

#### (2) 姪浜まち旅プロジェクト推進活動

- ①着地型観光まち歩きマップの作成・印刷 ※平成 28 年 3 月末
- ②まち旅プロジェクト計画の策定（今までの事業の検証を含む） ※平成 28 年 3 月末
- ③具体的な実践活動の展開 ※平成 28 年 4 月～

#### (3) 中期的な取り組み

- ①名柄川人道橋の実現に向けたシナリオづくり
- ②次のステージを意識した夢のある提案

#### (7) 灯明コンサート IN 興徳寺

今回の灯明コンサートは、興徳寺で実施することとした（10月17日）。興徳寺では平成21年度、24年度に続き3回目の開催となるが、今回は興徳寺が境内を手入れされており、まだ途中段階ではあるがお祝いをしたいという趣旨もあった。演奏者はお馴染みのチェロの于波（ウ・ハ）さん、ピアノの葉山由美さんである。みそ蔵コンサート、姪浜住吉神社での灯明コンサートに続き、3回目の演奏となる。今回も集客に苦労したが、会員の協力を得て何とか目標の170名に近い方々に参加していただいた。

さて、今回もステージの設置方法が課題であったが、閉店する際にマイヅル味噌さんからいただいた木製ベンチを組み合わせて使うことで対応した。その上にコンパネとカーペットを敷くことで立派なステージの出来上がりである。こういう時にも率先して対応してくれる器用な肥塚さんの存在が大きかった。ススキを飾っていただいたのも肥塚さんである。ちょっとした演出がコンサートを盛り上げる。寺社での灯明コンサートは通算5回目であり、設営や灯明の点火などの準備は順調に進んでいった。

日が落ちた午後6時45分頃から演奏をスタート。「プレリュード」「アヴェ・マリア」「リベル

タンゴ」「西北民風舞曲」「愛の讃歌」「ゴットファーザー」「シェルブールの雨傘」「ふるさと」などの曲を演奏していただいた。チェロ、ピアノの音色が 750 年の歴史のある古刹・興徳寺の境内に優しく響き渡った。400 個の灯明もより幻想的となる。会場の皆さまに姪浜ならではの空間と時間を楽しんでいただけることが、筆者にとっての最大の楽しみであり、まちづくり活動のやりがいであり達成感なのである。



興徳寺では3回目の灯明コンサート

#### (8) 最後のみそ蔵イベント

マイヅル味噌のみそ蔵については、当協議会が発足した平成 19 年 3 月以来、活動の中心であり、「みそ蔵コンサート」や「町家散歩展」「唐津街道展」「ディスカバー姪浜展」などの展示、「地域づくりや町並みをテーマにした講演会やシンポジウム」「子ども景観教室」「唐津街道サミット」「全国町並みゼミ福岡大会」「九州大学の都市・建築ワークショップ」などの会場としても使わせていただき、多くの方々に江戸時代から残る空間を体感し感動していただいた。

そして閉店が決まった平成 25 年の夏以降は、秋と春に特別公開を行い、建物の価値や後世に残していくことの意義、活用方法について、来場の皆さまと考えてきたが、いよいよ平成 27 年 10 月～11 月に「最後の特別公開」を行うことになったものである。みそ蔵に思い出のある方にもたくさんご来場いただいた。皆さまの感想の一部を紹介しよう。

#### 最後のみそ蔵公開時での来場者の感想

- ・おじいさんの代までここで酒蔵をしていたが、飛行機の部品工場となった後、やめてしまった。やめた理由の詳細はわからないが、おじいさんは何も語ろうとしなかった。自分としては詳しく知りたかったが、嫁入りした身分なので聞けなかった。今回が最後のみそ蔵公開ということで、勇気を絞って来てみたら、いろいろ参考になることがあって感動した。パネルにもみそ蔵の歴史が正確かつ詳細に紹介されていて、うれしい。夢がかなったようで、良い思い出になった。(70 歳代女性。みそ蔵の前身の造り酒屋に嫁いだ方)
- ・マイヅル味噌の味噌をよく買いに来ていた。その当時は、みそ蔵の中まで入ることができなかったのが、今回が最後の公開ということで来てみた。店の奥がこんなに広いとは思っていなかった。その当時のことを思い出し、懐かしくて感動した。(60 歳代女性)
- ・第二次大戦中の飛行機の部品工場時代には、米軍は空襲の対象として狙っていたが外れ、近くにあった消防署が被害に遭った。戦火にも耐え、生き残った建物であり、歴史的生き証人でもある。小さい頃はここ付近でよく遊んだものだが、懐かしい。これからも用途を変えながら使い続けてほしい。(80 歳代男性)





## (10) 新案内所改修

新案内所については、平成27年5月の総会時点では、当面は倉庫として使うことで承認を得、リフォーム費用として10万円を予算計上していた。しかし、7月の定例会及びその後の事務局会議で案内所として使う方向で決定し、順次改修を進めていくことになった。その時は、9月改修着手、11月中旬完成、11月下旬移転というスケジュールであった。



リフォーム前

履物店として使われていた時の荷物の搬出については春先から進めていたが、本格的に改修作業に取りかかったのは、9月下旬からである。主体的に改修作業を行ったのは、肥塚さんと小部家さんである。土日は毎週のように作業をしていただいた。筆者はまだみそ蔵でのイベントの対応や補助事業の申請、報告書作成などの多くの業務を抱えており、改修作業に関われるようになったのは10月下旬からであった。



リフォーム中

その後の作業も大半は肥塚さん、小部家さんが行い、筆者や阪本さんが時々手伝う程度であった。11月末にみそ蔵に置いてあった荷物をすべて移動。12月に入ると塗装作業に入り、他のメンバーも少しずつ参加してもらえるようになった。年内には予定していた工事はほぼ完了したが、一番ネックになっていたのは電気工事である。当面は、仮設ということで肥塚さんに暫定的に工事を行っていただき、12月末に何とか形を整えた。



リフォーム後

年が明けた平成 28 年 1 月 15 日に新案内所で記念すべき定例会を開催し、新案内所の運用についても意見交換を行った。その中で「当面は毎週土曜日の 10 時～15 時に案内所を開ける」ということで決定した。翌 16 日には地域への内覧会を行い約 30 名の方に来場いただいた。2 つの新聞社からも取材に来ていただいた。

その一方で、電気はまだ仮設の状態であり、電気工事の日程も見通しがつかない状況であった。1 月 17 日には肥塚さんが仮設の電気を撤去し、電気工事店の工事を待つことになるが、電気工事が終わったのは 3 月 10 日頃であった。こうして新案内所の改修は概ね完了したが、改修作業を通じていろいろな人間模様が見えてきたのであった。

また、1 月 16 日の内覧会以降、毎週土曜日の開所日には筆者と肥塚さんで対応することになった。筆者と肥塚さんは合間を見て、案内所の飾り付けや案内所裏の樹木の剪定や枝の搬出も行った。



開所後の様子



開所後も樹木の剪定や枝の搬出作業は続いた。

その後、筆者が在籍中に対外的な活動で案内所を活用したのは、3 月 4 日の久留米市京町地区コミュニティの視察、3 月 25 日の福岡市役所若手職員を招いての勉強会、3 月 26 日の姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会発足式&祝賀会などである。地域のまちづくりのために安い家賃で貸していただいた貸主の気持ちに応えるためにも、しっかり活用していくことが必要である。



久留米市京町地区コミュニティの視察



福岡市役所若手職員を招いての勉強会

### (11) 「ふるさとづくり大賞」受賞

年が明けた平成 28 年 1 月 5 日に「ふるさとづくり大賞」受賞という嬉しいニュースが飛び込んできた。これは、平成 27 年 7 月下旬に福岡市の担当部局から申請したらどうかという打診があり、2 日間で急ぎょ申請書類を作成し、西区役所からの推薦も受け、応募していたものである。

当日の受賞式には筆者が出席し、総務省の森屋宏大臣政務官から表彰状をいただいた。少し緊張したが、協議会の活動を牽引してきた筆者の晴れ舞台である。今までの苦労が評価された瞬間である。その後、受賞者全員で記念撮影。筆者は最前列の左から 2 番目の席であった。

その後、「地域の魅力を引き出す」をテーマにしたパネルディスカッションでは、「ヒト（人）」「モノ（物）」「コト（事）」や「相手への配慮」など、今後の姪浜のまちづくりのヒントになる内容もたくさん吸収し、収穫の多い受賞式となった。

この日の夜は、さいたま市にいる長男と大宮で合流し、美味しい料理を食べながら 2 人だけの小さな祝賀会を楽しんだ。「おめでとうございます。乾杯！」



平成27年度 ふるさとづくり大賞表彰式 平成28年1月23日 於 オークラ千葉ホテル

ふるさとづくり大賞表彰式

### (12) 春のまち旅 2016

これは、筆者が企画した最後のイベントとなったまち歩きイベントである（3月26日）。今回は「白うさぎ伝説と桜の名所巡り&姪浜ブランド店巡り」である。コースは次のとおりである。

### 今回のまち歩きコース

姪浜駅南口集合・概要説明 (9:30~9:40)

⇒**うさぎと龍のモニュメント** (9:40~9:45) ⇒真根子神社経由 ⇒**興徳寺** (9:55~10:15)

⇒小戸町経由⇒**龍王館** (10:20~10:30) ⇒法蔵院 (10:35~10:40)

⇒順光寺 (10:45~10:50) ⇒**且過だるま堂** (10:55~11:05) ⇒光福寺横の路地

⇒**光福寺** (11:10~11:20) ⇒「**仲西商店**」で**削り節試食** (11:25~11:35)

※仲西商店試食中に案内所も見ていただく。ミニ休憩 (お茶と饅頭のサービス)

⇒「**魚嘉**」で**かまぼこ試食** (11:40~11:45) ⇒**住吉神社** (11:50~12:05)

⇒パンの店 窯蔵、みそ蔵 (12:10~12:20) ⇒東町経由⇒**万正寺** (12:30~12:40)

⇒**探題塚** (12:45~12:55) ⇒「**たつき**」で**昼食** (13:00~14:00) 解散

※東方面の桜の名所 (**観音寺**、**愛宕神社**) の紹介 (希望者には、よかとこ案内人さんが案内)

※凡例   : 白うさぎ伝説に関する場所

**赤 字** : 桜の名所      **青 字** : 昼食、試食場所

当日は35名の方々に参加していただき、絶好の天気の中、姪浜ならではのコースを楽しんでいただいた。参加者は大変喜んでいただいていた。姪浜駅南口にある大きなモニュメントの由来を知っている方はほとんどいないのか、参加者がしきりにうなずいている様子が伝わってきた。昼食や試食の場所も大好評で、多くの方が削り節やかまぼこ、天ぷらを購入されていた。桜はまだ七分咲きといった感じであったが、姪浜の桜の名所をPRできたと思う。満開の頃に再度来ていただけたらと思う。



春のまち旅 2016

このように寺社やお店、まち歩きガイドの皆さまの協力を得ながら、一つひとつの事業を丁寧に展開していくことが、「姪浜まち旅プロジェクト計画」の推進につながり、ひいては姪浜地域の活性化につながっていくのである。

### (13) 姪浜ネクスト発足式&祝賀会

春のまち旅 2016 の終了後、16時から「姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会」を開催した。これは、平成 27 年 9 月～11 月の 3 回の準備会を踏まえて、いよいよ発足会を迎えることになったものである。姪浜を取り巻く環境の変化に対応していくためには、地域内のいろいろな関係団体と連携して取り組んでいく必要がある。まずは賛同していただける団体・個人でスタートすることとした。第 1 回目は、筆者がパワーポイントを使って趣旨説明と予算の説明を行った後、意見交換。その後、当協議会のアドバイザーの高山美佳さんの記念講演を行った。

プログラムの最後は、交流会と祝賀会である。都市景観大賞の祝賀会と異なり、小さな祝賀会であるが、これが筆者の目指す本来の姿である。あくまで気持ちで祝い、もてなすことが大事なのである。祝賀会には次に示すような 5 つの趣旨があったが、どれ一つとっても容易なことではない。こういう多くの趣旨の祝賀会を 5 つ同時にできることは、素晴らしいことだと思う。

#### 交流会・祝賀会の趣旨

- (1) TEAM 姪浜ネクスト発足記念
- (2) ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）受賞記念
- (3) 新案内所完成記念
- (4) まちづくり協議会設立 10 年目突入記念（平成 19 年 3 月 26 日設立）
- (5) タイから姪浜に移住された吉本さん一家歓迎会



記念講演会



交流会・祝賀会

### (14) win-win-win-win 方式による、まち歩きマップの改訂

当協議会では平成 20 年 3 月にまち歩きマップを発行して以来、工夫を重ねながら、これまで 3 万部以上配布してきた（当初のマップ：15,000 部、広域回遊マップ：6,000 部、現在のマップ：10,000 部）。特に現在のマップは、完成度も高く、地域の皆さまや来訪者にも大好評で、姪浜の魅力発信に大きな成果を上げてきた。

その財源については、当初は助成金（一部）を活用してきたが、その後は協議会の単独費用で

作成・発行していた。今後、継続して発行するためには財源確保が喫緊の課題となっていた。

そこで、今回の改訂に当たり筆者が提案したのは、まちづくり活動の継続性及び「来訪者」「店舗」「姪浜地域」「協議会」の4者の Win-Win-Win-Win の関係構築を目指して取り組んでいくことである。

### まち歩きマップのメリット

- ◆来 訪 者……姪浜の魅力を享受できる。
- ◆店 舗……来訪者や地域の方々にお店の情報を伝えることができる。
- ◆姪浜地域……姪浜の魅力を地域内外に発信できる。
- ◆当協議会……継続的なまちづくり活動に必要な財源を確保できる。

各店舗の協賛をお願いするに当たり、こうしたメリットだけでなく、『姪浜ネクスト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～』の実現に向けて、地域の総力を結集して、姪浜ならではの多彩な地域資源を活かしたまちづくりに邁進していきたいと伝えることとした。最終的には、26社から協賛金をいただいた。協賛いただいた各店舗の方々のご厚意に応えるためにも、地域に根ざした活動を展開していく必要がある。



Win-Win-Win-Win 方式により改訂したまち歩きマップ

## (15)「姪浜まち旅プロジェクト計画」の策定

筆者が中心となり、1年間かけて取り組んできた「姪浜まち旅プロジェクト計画」の概要を紹介しよう。まずは、まち旅を進めていく背景は次のとおりである。

### まち旅を進めていく背景

当協議会では、これまで姪浜の魅力の地域内外への発信をテーマに、「景観歴史発掘ガイドツアー」「みそ蔵コンサート」「まちなみ展示会」などの多彩なまちなみイベントを実施してきた。その結果、マスコミの取材回数の格段の増加や全国的な賞の受賞につながり、地域への来訪者が増えるなど地域の魅力発信や活性化に大きな成果を上げてきた。そして、その中心にはいつも地域の歴史的・景観的シンボルとなっているマイヅル味噌のみそ蔵（国の登録有形文化財）があった。

しかし、マイヅル味噌は平成25年末に閉店し、売却も検討されるなど、今後はイベント会場や地域交流の拠点などとしては活用しにくい状況であり、これに代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業を発掘・発信していく必要がある。⇒『ポストみそ蔵の発掘』が喫緊の課題である。

### みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや 姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信

こうした課題を踏まえ、姪浜のまちづくりの次のステージ『姪浜ネクスト』の一環として、地域内の各団体と協働で、姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト」に取り組み、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル（着地型観光）の定着を目指していくものである。また、まち旅プロジェクトに取り組むことにより、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていくものである。



また、当協議会では平成27年度に、海や港・歴史との関わりの深い、姪浜らしさにこだわったモデル事業（夏休み親子まちなみ探検隊、遊覧船から見る福岡のまちなみと花火大会、寺社コンサート、寺社講話&紅葉巡りツアー、着物で唐津街道の寺社をそぞろ歩き、白うさぎ伝説と桜の名所巡り&姪浜ブランド店巡り）に取り組み、参加者の反応、これまでの実績などを踏まえ、今後の継続的实施に向けた可能性と課題を探ってきた。

こうしたモデル事業と並行して、「着地型観光まち歩きマップの作成・印刷」「まちなみ案内所の整備」といった情報発信ツールの整備を進め、姪浜の多彩な魅力資源を活用した「姪浜まち旅プロジェクト計画」を策定した。その概要は次のとおりである。



最後に、コラム 11（かわら版第 9 号に掲載した事務局長通信）とともに、多忙を極めた平成 27 年度を振り返りたい。

### 平成 27 年度の振り返り

平成 27 年度も地域のために様々な活動を展開してきた。今までで一番活動した時期ではないだろうか。職場も異動になり、「空家対策」や「耐震対策」という話題性のある仕事に取り組むことになった。公私ともども大変忙しい時期ではあったが、事務局長としての強い責任感と使命感をもって協議会の活動を牽引してきた。こうした精力的な活動は、国からの 2 つの賞の受賞という形で評価されることになった。

一方で、案内所の移転に伴う改修などで会員間の結束の乱れが生じたのも事実である。まちづくりへの志や協議会の運営方法などに対する考え方の違いもあった。

また、みそ蔵の存続について、筆者は福岡市と所有者、所有者の代理人の間に立ち、いろいろな協議・調整を行ってきた。みそ蔵の件については後で触れたい。



つかの間の休日（ふるさとづくり大賞受賞の翌日。谷中散策）

### コラム 11 ピンチをチャンスに

今回の都市景観大賞の受賞により、3年連続して全国的な賞を受賞することになりました。当協議会がいろいろな賞をいただけるのは、協議会が頑張っているからではなく、その根底に姪浜という地域が素晴らしい魅力を持っているからです。地域の皆さま方も姪浜に住み、商い、まちづくり活動に関わることに誇りを持っていただきたいと思います。

我々が目指すのは、ただ一つ、地域内の各団体や関係者が協働・連携し、「姪浜の多彩な魅力資源を活かした、姪浜でしかできないまちづくり」を実現することです。みそ蔵の今後は未定とのことですが、「ピンチをチャンスに」をモットーに常に前を見てチャレンジしていきましょう。（平成 27 年 11 月 25 日発行の「かわら版第 9 号」より）

## 21 3rdステージの振り返り

### (1) 主な活動メンバー

3rd ステージ (H26 年度～27 年度) の2年間は、協議会活動の最盛期であった。新たな会員を迎えることで今まで以上に精力的な活動を展開することができた。それは、伴さんであり、小部家さんであり、仲西商店 (削り節) の店主・東納さんである。定例会の中でも積極的に前向きな発言をしていただき、定例会の雰囲気も一変していった。今までの事業の継続に加え、案内所賃貸に当たっての交渉や改修、協議会の運営のあり方についての前向きな意見交換など、彼らの存在は大きかった。



みそ蔵公開イベント(平成 26 年 10 月)

### (2) 活動資金

3rd ステージの2年間は、「登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築」及び「次のステージに向けた姪浜ネクストの推進」を活動目標に掲げた。みそ蔵を再生・活用したいという想いと、その一方でポストみそ蔵を見据えた事業展開という一見相反する課題に取り組むことになった。

協議会の会費だけではその費用を捻出できないため、各種助成金に申請した。平成 26 年度は、福岡県の「ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金」及び「公益信託 大成建設自然・歴史環境基金」に採択された。この2つの助成金は今まで以上に筆者の想いを込めて応募したものである。

また、平成 27 年度は、まちづくり地球市民財団の「まちづくり人応援助成金」に採択された。これはポストみそ蔵を視点に入れた「姪浜まち旅プロジェクト計画」の推進をテーマにしたものである。

さらに、平成 27 年度の後半に区画整理促進機構の「街なか再生助成金」にも採択された。これは、「姪浜を次のステージへ～空き店舗を再生・拠点とした姪浜ネクスト推進事業～」をテーマとしたもので、補助対象期間が平成 28 年 2 月～12 月であり、ほぼ平成 28 年度の補助事業である。これは、明らかに実践的な活動を視野に入れたものであった。

全国区の助成金の採択はなかなか難しいが、筆者は果敢にチャレンジしてきた。前にも述べたが、筆者は協議会の活動及び地域の状況を踏まえ、それに対応した適切な助成金獲得を念頭に入れてきた。助成金を何に使うのではなく、数ある助成金の中から、協議会の活動状況に応じた助成金を選択し、チャレンジしていくことが大切であり、筆者は常にそれを意識していた。

### 【3rdステージの助成金】

- ・ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金（福岡県）H26年度
- ・公益信託 大成建設自然・歴史環境基金 H26年12月～27年11月
- ・まちづくり人応援助成金（まちづくり地球市民財団）H27年度
- ・街なか再生助成金（区画整理促進機構）H28年2月～12月

### 【3rdステージの事業費の変遷】

単位：千円

	助成金	自己資金	総事業費
平成26年度	500	924	1,424
平成27年度	1,000※1	1,672	2,672
平成28年度	500※2		

※1 「公益信託 大成建設自然・歴史環境基金」……2年度に跨るためH27年度で会計処理

※2 「街なか再生助成金」……2年度に跨るためH28年度で会計処理

### (3) 表彰

3rdステージは、日本建築士連合会「まちづくり優秀賞」、「都市景観大賞 景観教育・普及啓発部門（国土交通大臣賞）」「ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」の3つの全国レベルの賞を受賞した。今までの活動の実績が大きく花開いたことになる。そして何よりも姪浜及び協議会の名前を全国に発信することができたことが嬉しい。



各種賞の受賞により姪浜及び協議会の名前を全国に発信

### (4) 総括

このように3rdステージの2年間は、「登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築」及び「次のステージに向けた姪浜ネクストの推進」を目標に様々な事業を展開してきた。協議会としても活動がピークになった時期であり、地域内外から大きな評価を受けた時期である。

筆者は、難しい仕事を抱えていた時期であったが、「姪浜を次のステージへ」を目標に、協議会の方向性や地域の状況を冷静に見極め、粘り強く推進してきた。

## 22 みそ蔵（登録有形文化財・マイヅル味噌）

ここで、今までの活動の中心であったマイヅル味噌のみそ蔵の件について触れておこう。

### （1）みそ蔵とマイヅル味噌の歴史

#### みそ蔵とマイヅル味噌の歴史（概要）

##### （みそ蔵の歴史）

- ◇江戸時代後期（1830年以前）に造り酒屋の酒蔵として建造され、大正末期まで営業
- ◇第二次大戦中は飛行機の部品工場に転用
- ◇戦後は博多区呉服町から移転してきた「マイヅル味噌」のみそ蔵として再活用
- ◇約200年の役目を終え、建物を解かれる（平成28年12月）

##### （マイヅル味噌の歴史）

- ◇大正8年：呉服町にて創業
- ◇昭和20年：戦争で空襲に遭う。
- ◇昭和21年：姪浜に移転、飛行機部品工場のみそ蔵と店舗に改修して営業再開
- ◇平成17年：福岡県西方沖地震の被害を受ける。ボイラーや加圧釜の損傷により味噌の製造を大幅に縮小
- ◇平成18年：福岡市都市景観賞の受賞
- ◇平成19年：パンの店・窯蔵を新たに開店。国の登録有形文化財の登録を受ける。
- ◇平成22年：建物の一部を利用して「唐津街道姪浜まちづくり協議会」の事務所兼まちの案内所を開設
- ◇平成25年：味噌の製造場としての役割を終え、閉店（パンの店・窯蔵は営業中）
- ◇平成27年：協議会の案内所を旧魚町通りに移転
- ◇平成28年：パンの店・窯蔵 愛宕に移転・開店  
酒蔵⇒飛行機の部品工場⇒みそ蔵と様々な形で活用されてきたが、役割を終え、建物を解かれる（12月）。

マイヅル味噌の建物は、文政13年（1830年）より前に造り酒屋の酒蔵として建てられた。お酒の銘柄は金盛（きんせい）である。姪浜でも唐津街道沿いは良い水が出たようで、3軒の造り酒屋があったようである。その後、第二次大戦中は飛行機の部品工場に転用された。軍機の部品を作っており、米軍もその情報をつかんでいたのか、この建物を空襲の標的にしていたことがみそ蔵特別公開時の来場者の話でわかった。幸いにも狙いが外れ、生き延びることになった。

その後、当時博多区の呉服町で味噌を造っていたマイヅル味噌（大正8年創業）が、戦争の被害に遭い、移転を余儀なくされたことから、姪浜に移転し、このみそ蔵で味噌造りを始めた。昭和21年のことである。国産の原料（大豆、米、裸麦）にこだわり、添加物は一切加えず、安全と安心、美味しさを追求してきた。また、麹も気温などに左右される性質に合わせて、かき混ぜる時期を職人の勘で見極めながら、1回の仕込みで使う分を40時間以上かけてゆっくり発酵させて作るなど、徹底した手作りの味噌が評判になった。しかし、平成17年の福岡県西方沖地震で被害を受け、ボイラーや加圧釜の損傷により味噌の製造を大幅に縮小した。



酒蔵時代の滑車



「金盛」の陶器の酒樽



昭和 32 年のマイヅル味噌の町並み(稚児行列)



味噌作り教室の様子

その一方、平成 19 年には白水さんの三男夫婦がパンの店・窯蔵を開店し、長男が作る熟成味噌を使ったみそメロンパンが大ヒットするなど、国産小麦と天然酵母にこだわった店として評判になった。また、平成 22 年にはみそ蔵の一角に当協議会の事務所兼まちの案内所を開設し、まち歩きマップやかかわら版を配布するなど姪浜の魅力スポットや協議会の活動を発信してきた。みそ蔵が久しぶりに賑わいを取り戻した時期でもあった。



パンの店・窯蔵



まちの案内所を開設した時の様子

しかし、諸事情により事業継続が困難になったことから、平成 25 年末に味噌の製造場としての

約1世紀の役割を終えて閉店し、協議会の案内所も閉鎖に近い状態となった。

## (2) みそ蔵での多彩なイベント

みそ蔵での活動は今まで述べてきたことと重複するが、概要は次のとおりである。

当協議会が発足したのは平成19年3月である。以来、活動の中心はみそ蔵であった。みそ蔵での最初のイベントは、この建物が国の登録有形文化財に登録されたのを記念に20年3月に開催した「みそ蔵コンサート」である。味噌の香りが漂う空間の中で、古いみそ蔵に響き渡るチェロ、ピアノ、ヴァイオリンの演奏は参加した皆さまに感動を与えた。その後、協議会の定番イベントとして毎年2回程度開催し、アコーディオン、オカリナ、リュート、チェンバロ、津軽三味線、ボーカル、ギター、ドラムなど多彩な演奏が計15回にわたり繰り広げられた。

また、漫画家・長谷川法世さんの「町家散歩展」、版画家・二川秀臣さんの「唐津街道展」の他、姪浜の歴史や町並み・生活を紹介した「ディスカバー姪浜展」など、みそ蔵にふさわしい多彩な展示活動を行ってきた。味噌の香りのする空間の中で、来場者には昔のなつかしい雰囲気を感じ取っていただけたのではないかと思う。

この他、地域づくりや町並みをテーマにした講演会やシンポジウム、子ども景観教室、唐津街道サミット、全国町並みゼミ福岡大会、九州大学の都市・建築ワークショップなどの会場としても使われ、多くの方々に江戸時代から残る空間を体感し、感動していただいた。



みそ蔵コンサート



唐津街道版画展

そして閉店が決まった平成25年の夏以降は、秋と春に特別公開を行い、建物の価値や後世に残していくことの意義、活用方法について、来場者と考えてきた。

今まで戦火を免れ、様々な形で使われ、生き続けてきたみそ蔵である。いろいろな事情があるとはいえ、筆者らはいつまでも地域のシンボルであってほしいと願ってきた。これは、みそ蔵を訪れた方々だけでなく、多くの市民の願いだったと思う。

## (3) みそ蔵に対する筆者の想い

マイヅル味噌のオーナーの白水さんから筆者らに閉店の話があったのは平成25年9月頃であった。「長男の体調が思わしくなく、これ以上味噌作りを続けることは難しい。平成25年末で閉店したい。」という非常にショッキングな連絡であった。筆者らが白水さんと今後の件について協議を開始したのは、この時からである。

筆者は早速、この年の秋のイベントを「唐津街道姪浜ウィーク」として位置付け、建物の価値や後世に残していくことの意義を市民の皆さまに伝えていきたいと考え、みそ蔵公開イベントを企画・実施した。



平成 25 年 11 月のみそ蔵公開イベント

白水さんは、「建物の半分を居住スペースとパン店とし、残りの半分を解体・売却することも検討」など何とか残す方向も考えていたが、ネックになるのは建物の修理費と固定資産税の問題であった。そして、12月には味噌の製造場としての約1世紀の役割を終え閉店した。在庫の味噌も完売した。

筆者は当然、姪浜のシンボルとして再生・活用したいという強い想いを持っていた。白水さんの気持ちも踏まえながら、地域や市民の関心をいかに高めていくかを考えた。そのためには、今まで以上にみそ蔵でのイベントを企画し、多くの方々にみそ蔵を見ていただくことが重要だと考え、まずは平成26年度の福岡県の「ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金」に申請・採択された。9月～11月のみそ蔵公開イベントでは、5日間で約1,200人の市民に来場いただき、みそ蔵の魅力を知っていただいた。

### 姪の浜「マイヅルみそ」手作り1世紀の歴史に幕



白壁と瓦屋根が特徴のみそ蔵兼店舗

素材や手作りにこだわり、白壁の土蔵で造られることでも知られた福岡市西区姪の浜の「マイヅルみそ」が今月、約1世紀にわたる製造の歴史に幕を下ろす。製造・販売会社の4代目・白水勝博さん(48)が体調を崩し、事業継続が困難になった。みそ造りから身を引く白水さんは「みその魅力や先代から受け継がれた思いを伝えたい」と、これからは市民向けのみそ造り教室などで伝統の継承に力を入れる。

1919年(大正8年)、福岡市博多区で創業。戦災を受け、46年、現在の旧唐津街道沿いの場所に移った。江戸末期に建てられた白壁と瓦屋根が特徴の造り酒屋の土蔵を生かし、みそ蔵兼店舗に改装した。

マイヅルみそは、米や大豆などの原料は国産を使い、添加物は一切加えない。麴も気温などに左右される性質に合わせて、かき混ぜる時期を職人の勘で見極めながら、1回の仕込みで使う分を40時間以上かけてじっくり発酵させる手法を守り続けた。機械で温度を調節しながら発酵させる現代主流の製法とは一線を画してきた。

先代で白水さんの父・勝利さんが2004年に他界後は、母・洋子さん(70)と店を守ってきたが、05年3月の福岡県西方沖地震で店の一部が壊れた。白水さんも体調を崩したため、従業員を解雇し、06年にいったん店を閉めた。

だが、地域の住民や全国ファンから存続を望む声が多数寄せられた。約2年後、体調が回復した白水さんは一部の製造工程を他の店に支援してもらいながら、製造を再開した。

「みそ造りは人づくり」。父のこの教えを実践しよう、と新たに造り方教室もスタート。親子の参加者も多く、みそが苦手だった子供も自ら造ったものを食べて好きになった。その様子を見て、父の教えが確かだったことを実感した。

しかし、白水さんは今年に入って再び体調が悪化した。5月を最後に製造を断念。在庫を売り切る年内をめどに店を閉めることにした。

自分には何ができるのか……。みその良さを伝えることにたどり着いた。年明けから体調を見ながら教室を開いたり、講演をしたりして伝統の味と文化を広げていく考えだ。

和食が、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の無形遺産に登録された。「みそは和食の万能調味料。かつては各家庭で仕込み、それぞれの味があった。伝承される中で家族の心や絆も育んだ。和食が見直される中、しっかり伝える役目を果たしたい」と意気込んでいる。

(2013年12月8日 読売新聞)

### みそ蔵閉店を伝える当時の新聞記事



みそ蔵特別公開(平成 26 年秋)

みそ蔵を残してほしいと思うのは、筆者だけでなく多くの市民の願いでもあるが、白水家のことなので、筆者らもあまり深入りすることはできなかった。しかし、筆者もここで諦めるわけにはいかなかった。白水さんからみそ蔵閉店の話がある前の平成 26 年 7 月に申請していた「大成建設自然・歴史環境基金助成事業」の採択も決まり、「みそ蔵の再生・継続的活用」をテーマとして平成 27 年 11 月まではイベント時のみそ蔵の活用について了承をいただいた。

こうして平成 27 年 11 月までは、みそ蔵公開やそれに合わせた展示会、コンサート、講演会などを開催し、市民の皆さまと建物の価値や後世に残していくことの意義、活用方法について考えてきた。



みそ蔵での最後のイベント(平成 27 年 11 月)

しかし、白水さんは平成 27 年 2 月に移転し、パンの店・窯蔵さんと協議会の案内所が残るだけとなった。協議会の案内所も 11 月末に退去。窯蔵さんは翌 28 年の夏に愛宕に移転し、新店舗での営業を始めた。この時にみそ蔵は空家となり、売買に向けた手続きが進められていったようだ。国の登録有形文化財のプレートも返却され、登録文化財からも抹消された。最終的には地場のデベロッパーに売却された。平成 28 年 12 月に約 200 年の役目を終え、建物も解かれた（解体されたという表現は似合わないだろう）。

筆者の職場で建設リサイクル法に基づく解体届を受理しており、筆者が担当課長の時にそれを受理するのも不思議な縁である。筆者は、解体が始まる 12 月 1 日の午前 8 時に最後の姿を写しにバスを途中下車してみそ蔵に向かった。解体業者が朝礼をしており、いよいよ解体が始まるのだ

など思った。今にも雨が降り出しそうな天気が寂しさをより助長させた。

その後、解体完了まで時々足を運んだ。解体を見届けるのも筆者の姪浜での活動のひとつまかも知れない。解体中のみそ蔵を見て、あるご老人が「何で壊すの。もったいない。寂しくなるなあ」とつぶやいていた言葉が印象的であった。最終的に解体が終わったのは、翌年の1月中旬であった。



解体開始当日(平成 28 年 12 月 1日)



解体中(平成 28 年 12 月 17 日)



解体前の町並み



解体後の町並み。寂しさは否めない。



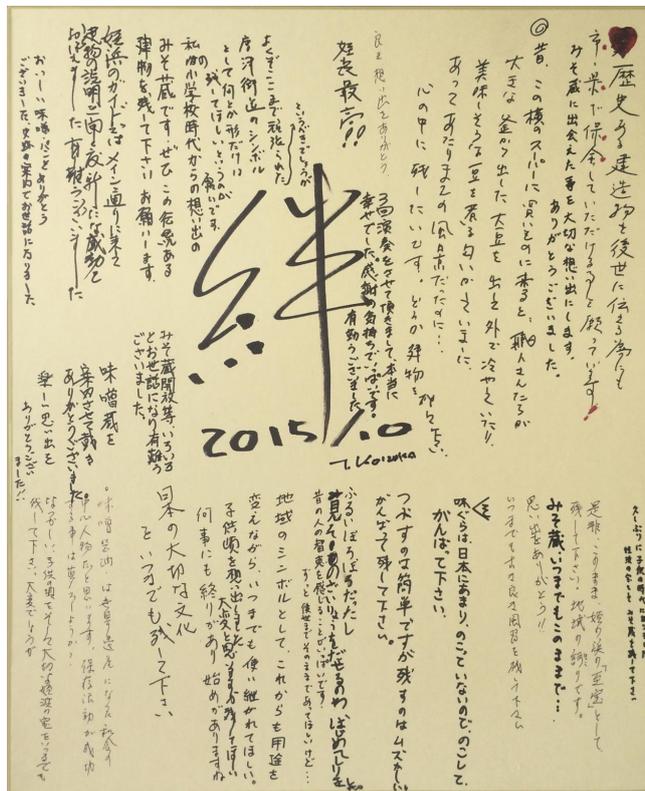
筆者らは、売却に傾いた白水さんの気持ちを考慮し、保存運動や署名活動といったことはしなかったが、かわら版で「みそ蔵特集号」を組んだり、みそ蔵公開時に来場者に書いていただいた色紙を白水さんに渡すなど、筆者としては白水さんに何とか残してほしいという気持ちを伝えて

きたつもりである。

また、みそ蔵の今後を心配した筆者の知り合いからも、みそ蔵活用の提案書を作成していただき、白水さんと直接話す機会も作った。福岡市からもみそ蔵保存に向けていくつか提案をいただいた。協議会としても、「みそ蔵活用計画書」を作成した。遅きに失した感は否めないが、事務局長としては最後まで粘り強く頑張ったつもりである。姪浜のシンボルが消えていくのは残念であるが、筆者としては白水さんに気を配りながら精一杯努力してきた。



かわら版「みそ蔵特集」(再掲)



来場者に書いていただいた色紙(再掲)

ところで、平成 25 年 8 月に「内蔵」で有名な秋田県横手市の増田地区に行く機会があり、姪浜やみそ蔵への想いを 4,500 字程度のエッセイにしたものがある。これは、平成 25 年 (2013 年) に「第 9 回 JTB 交流文化賞 交流文化体験賞 一般部門」に応募したものである。ちょうどマイヅル味噌の閉店が決まった頃であったと記憶している。白水さんにもお渡しした。さり気無く筆者の気持ちを伝えようとしたものである (参考資料 6)。

「参考資料 6 内陸部のまち・横手市増田と海辺のまち・福岡市姪浜

～日本海を隔てて 1100km 離れた地域の新たな交流の芽生え～

(2013 年 第 9 回 JTB 交流文化賞応募作品)

#### (4) なぜ残せなかったのか

「なぜ残せなかったのか」と聞かれば、まずは所有者の白水さんの意向によるところが大きいと答えるしかない。これだけの大きな建物を維持していく費用や固定資産税を負担していくことが難しいのは想像に難くない。筆者が白水さんの立場でも同じような選択をしたかも知れない。

ただ、筆者が不満に思うことは、協議会として何とか残す方法を考えられないのかという議論

がほとんど起きなかったことである。最初から諦めていた感は否めない。協議会として取り組んできた「みそ蔵公開イベント」などをどのように感じていたのだろうか。何とか残したいという強い気持ちを持っていただろうか。口で残したいとは、誰でも言えることである。協議会で不足していたのは、筆者を含め行動力のある会員がほとんどいなかったということだと思う。

これは協議会だけでなく、地域全体にも言えることである。保存運動をしたらどうかという地域の方々もいたが、自ら動こうとはしなかった。地域内にはいろいろな団体があるが、それぞれの枠組みの中でしか活動できていない。各団体を運営するだけでも大変なことはわかるが、地域全体の課題はそれぞれの団体の枠を超えて取り組む必要があるのではないだろうか。

終わったことをいつまでも振り返っても仕方ない。これからも姪浜のまちづくりは続いていくのである。今回のみそ蔵の消失を教訓として、地域全体として緩やかに連携・協働しながらまちづくりを進めていく必要がある。各団体でできることは限られており、姪浜全体の次のステージを見据えながら、各団体が枠を超えて、幅広い視点でまちづくりに取り組んでいく必要がある。今がその時期なのである。

#### (5) みそ蔵に関わる思い出

ここでは、みそ蔵に関わる筆者の思い出を少し紹介しよう。

○最初のみそ蔵コンサートの時に電源が落ちたが、演奏者は何もなかったかのように演奏していた。その後も時々あったが、手作りコンサートならではのことであろう。

○みそ蔵コンサートの余韻が忘れられない。参加者の満足そうな顔を見て、実施して良かったと思った。



活動を始めた頃のみそ蔵(平成 19 年)

○東川隆太郎さんの講演は最高に面白かった。笑いが止まらなかった。

○ヤップさんの話も良かった。世界 55 ヶ国の港の中から姪浜を選んでくれたそうだ。そういえば、この活動記録を書いている頃(平成 28 年 11 月 6 日)に愛宕神社でお会いした。お元気そうで何よりであった。

○展示の企画には苦労したが、みそ蔵という空間がカバーしてくれた。長谷川法世さんの町家散歩展の時は、飾りの台をたくさん作ったことを思い出す。

○「唐津街道サミット IN 姪浜宿」をみそ蔵で開催した時の料理は良かった。姪浜の食材を使った手料理は最高のおもてなしだった。

○まち歩きワークショップ後に九州大学の学生と食べたすき焼きも美味しかった。



唐津街道サミット IN 姪浜宿での料理



まち歩きワークショップ後、九大生とすき焼きパーティ

○味噌の香りも忘れられない。しかし、閉店後は少しずつ味噌の香りが薄れていった。

○都市景観大賞の受賞祝賀会は、本当はみそ蔵で実施したかった。

○いよいよ今日から解体か。やはり寂しい。姪浜住吉神社のイチョウが黄葉の見頃を迎えていた（平成 28 年 12 月 1 日）。

○かなり解体が進んだ。姪浜住吉神社では、お正月の準備が進められていた。もう少しで申年も終わり、みそ蔵も去る（平成 28 年 12 月 30 日）。



みそ蔵の解体が始まった頃の姪浜住吉神社



みそ蔵の解体が概ね終わった頃の姪浜住吉神社

○まだまだ思い出は尽きないが、10 年間ありがとう。そして 200 年間本当にお疲れ様でした。重荷を解いてください。みそ蔵は無くなっても、筆者の心の中にずっと生きています。

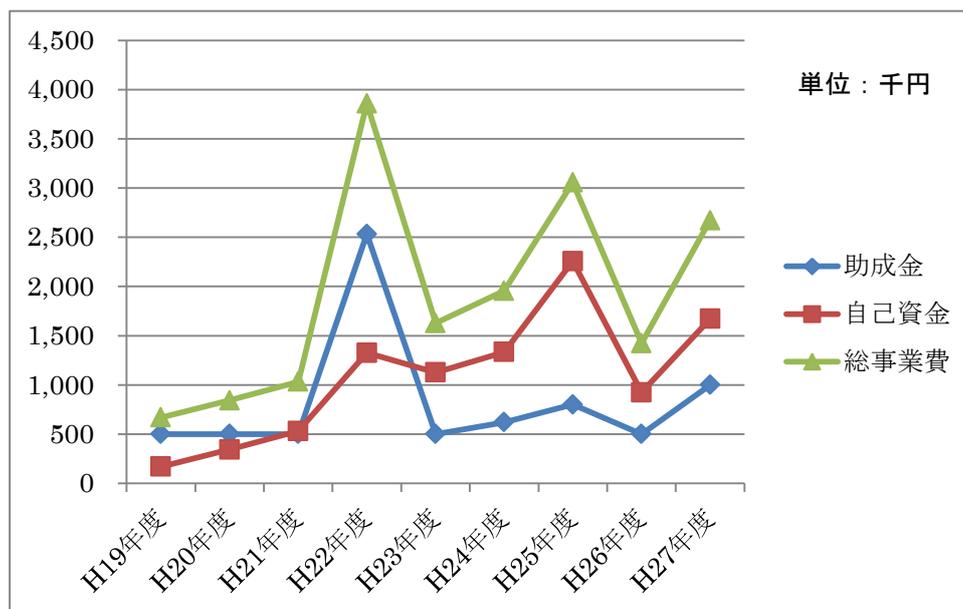
## 23 協議会卒業

### (1) 卒業決意

平成 27 年度のところで読み取っていただけたと思うが、様々な活動を展開しながらも筆者は協議会活動の限界を感じていた。それを強く感じるようになったのは、平成 27 年 10 月の「灯明コンサート IN 興徳寺」の頃からである。協議会として事業を進めているのに、自ら主体的に関わる意識が薄いことへの会員への不満である。また、新案内所の改修に当たっての会員間の軋轢もあった。「リーダー不在」「無責任さ」などいろいろな人間模様が見えてきたのである。その後も協議会の運営方針などに対する会員との意見の相違もあり、ここで今までの活動を振り返ることも大事だと考え始めた。

また、筆者は事務局長という役柄、毎週末や帰宅後の多くの時間を協議会活動の企画立案やイベントに費やすなど、その関わり方は明らかにボランティアの域を超えていた。活動費も概ね右肩上がりであり、平均活動費は助成金を含め年間約 190 万円である。これだけの活動を地域の一団体が継続して行うのは大変であり、筆者の負担は年々増していき、心身ともに疲労はピークに達していたのである。10 年というのは一つの区切りであり、これまでの活動を振り返るとともに、環境を変えて、さらに自分を磨いていく絶好の機会と考えた。

#### 【総事業費の変遷】



さらに、協議会卒業を決意しかけた平成 28 年 4 月中旬に、大学時代を過ごした熊本で震度 7 の大規模地震が 2 度発生し、大きな被害をもたらした。福岡市役所で建築物の耐震化の仕事も担当している筆者にとっては、人ごとではない。案の定、市民からの問い合わせも大幅に増えた。隣県で発生した地震はさすがに福岡市民に与える影響も大きいと実感した。

ちょうど熊本地震前の 3 月下旬～4 月上旬にかけて 2 回、熊本や阿蘇に出かけ、熊本城や阿蘇神社、阿蘇大橋、南阿蘇村などを見てきたばかりだった。訪問した先々の場所が大きな被害を受け、様変わりしてしまった。それはまさに『建築物の耐震化は重要な仕事である。大学時代の恩

返しをしよう。まちづくりの原点に戻ろう。』と筆者に伝えているようだった。姪浜という狭いフィールド、協議会という小さな組織を離れ、もっと大きな視点で世界を見てみようというメッセージだったのだろう。そして、筆者は4月22日の定例会で卒業の意思を伝えた。



熊本地震での被害(左:熊本城、右:阿蘇神社)

## (2) 最後の取材

卒業を表明する前の3月に、福岡県県民情報広報課から「ハロー！ふくおか県」という番組の取材依頼を受けていた。当協議会の「歴史的な環境を活かした取り組み」を紹介したいということである。依頼を受けて、早速筆者の方で取材候補をリストアップし、「地域に埋もれている身近な歴史や物語（まちかど遺産）の掘り起こしが、地域への誇りや愛着を育む土台になる」といった点を取材してほしいと提案した。概ねこの提案に沿った形で連休明けの5月14日に撮影が行われた。

撮影当日は天候にも恵まれ、撮影も順調に進んでいった。筆者がインタビューを受ける場面が多かったが、筆者に質問してくれるのは、アメリカ出身で福岡在住歴3年のジュリアンさんである。なかなかの好青年である。

午前9時から始まった撮影は、姪浜魚市場からスタートした。魚町通りの注連縄、光福寺横の路地、興徳寺、旧小戸町の町家、龍王館などを経て、魚町通りに戻り仲西商店の削り節を取材。その後、協議会案内所、姪浜住吉神社、マイヅル味噌などを経て、最後は姪浜駅南口の白うさぎ伝説にまつわるモニュメントの撮影とインタビューであった。白うさぎ伝説に関する紙芝居の情報を伝えると、それを借りることはできないかと担当のディレクターから依頼があり、紙芝居を作成したよかと案内人の波多野さんに連絡し使用させていただくことになった。



「ハロー！ふくおか県」の一場面

そして筆者の法被姿もこれが最後となった。「卒業は表明していても、事務局長として最後まで責任を持って対応する」ことが、協議会を支えてきた事務局長の使命である。たまたま案内所に来ていた肥塚さんが、こうした筆者の姿を見て「地域のために最後まで精力的に活動する姿に深い感銘を受けました」というメールを送ってくれた。

この日に撮影されたものは、6月9日の夜に放送された。筆者の知り合いから「最後まで事務局長の務めを果たしましたね。10年間、本当にお疲れ様でした。」というねぎらいの言葉をいただいた。

### (3) 協議会卒業

卒業を表明していても、まだまだ事務局長としての業務が残っていた。それは、5月31日の平成28年度総会の資料のうち、平成27年度の事業報告書と収支決算書の作成である。そして、補助事業の「まちづくり人応援助成金」の完了報告書作成である。かなりボリュームのある作業であるが、筆者でなければできない業務である。熊本地震の影響で本来の仕事も忙しい中、平日の夜と土日を作業に充てて何とか間に合わせた。

総会当日、筆者は第一号議案の「平成27年度事業報告、収支決算承認並びに監査報告の件」について説明した。その中で、「当初事業計画書は、H27年3月・4月の定例会で協議後、総会に提出して承認を得たものである」「総会で承認を得た事項を着実に遂行することが、事務局長の重要な業務の一つである」と丁寧に説明した。「新案内所の改修費用はどのくらいかかったのか?」「姪浜まち旅プロジェクト計画の内容はどのようなものか?」といった質問があると思っていたが、出席した会員からは何一つ意見も質問もなかった。こうして第一号議案は難無く承認された。

そして、次の議案（平成28年度事業計画・収支計画、役員改選など）に入る前に、筆者と肥塚さんは卒業の挨拶をして、思い出の多い案内所を後にした。こうして平成19年3月26日から始まった「唐津街道姪浜まちづくり協議会の事務局長」としての役割を終えたことになる。

また、今までの活動に当たり、お世話になった方々へは感謝の気持ちを込めて「10年というのは一つの節目であり、姪浜という狭いフィールド、協議会という小さな組織を離れ、もう一度原点にかえって、地域づくりや景観づくりを考えてみたいと思います。自分をステップアップする絶好の機会だと考えています。」と卒業の報告をさせていただいた。



思い出の多い新案内所での活動風景(平成28年3月)

#### (4) 協議会へのお土産

予期せぬ卒業であったが、それでも筆者は最低限の活動企画と助成金、協議会活動の PR の機会を残していた。

まず、平成 28 年 2 月～12 月までを補助対象とした（公財）区画整理促進機構の「街なか再生助成金」の活用である。これは 2 月に開始したばかりであり、本格的な活動は 4 月以降を予定していた。1 月に申請した時の背景（課題）、事業目標、事業内容は次のとおりであり、新案内所を拠点とした地域に根ざした活動を標榜していたものである。

#### 街なか再生助成金で予定していた事業

##### 【事業背景（課題）】

- 当協議会は、平成 22 年 2 月に国の登録有形文化財のマイヅル味噌の一角にまちの案内所を設置し、まち歩きマップやかわら版を配布するなど姪浜の魅力スポットや協議会の活動を発信してきた。しかし、平成 25 年 12 月のマイヅル味噌の閉店に伴い、その後は閉鎖状態が続いており、27 年 12 月の案内所の移転を契機として新たな活動拠点として運営していく必要がある。
- 「平成 27 年度都市景観大賞（景観教育・普及啓発部門）受賞を契機とした次のステージへの展開」「歴史的環境地区の景観づくりに対する福岡市の取り組みとの連携（届出対象の拡大）」「空き店舗の増加」などの当該地域を取り巻く環境の変化に対応していく必要がある。

##### 【事業目標】

- 平成 27 年 12 月に空き店舗を活用して開設した新案内所を、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、空き店舗活用のモデルとして PR し、地域内への空き店舗活用の波及を目指していく。また、ここを拠点として姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かしたまちづくり活動を実践していく。
- 地域内の関係団体などと協働・連携して「姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会」を立ち上げ、具体的なまちづくり実践計画書を策定し、モデル事業を実施していく。

##### 【事業内容】

- 空き店舗を再生・活用したまちの案内所の運営
  - ・空き店舗活用のモデル事業として地域への PR（空き店舗活用の地域内への波及）
  - ・情報発信、コミュニティの場としての活用
  - ・案内所の顔となる暖簾作成・設置
- 姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会の運営
  - ・委員会（3回）
  - ・ワーキング（5回）
  - ・専門家による講演会（2回）
  - ・先進都市視察（1回、15名、福岡近郊）
  - ・まちづくり実践計画書策定（20ページ程度）
  - ・まちづくり実践計画書を踏まえたモデル事業の実施  
（例：案内所周辺の店舗への暖簾設置によるまちなみ修景。4ヶ所）
- 地域への活動報告
  - ・季刊ニュースレターの発行（A4 カラー両面、3回、2,500部／回）

筆者が卒業してからどのような形で運用されたかわからないが、内容はともかく一通り終了したと川岡会長から連絡があった。それについては感謝したい。ただ、筆者が目指していたのは、「新案内所を地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、空き店舗活用のモデルとして PR し、地域内への空き店舗活用の波及を目指していく」ことであり、地域に根ざした協議会としてどのように活動していくかが、今後の課題であると思う。

2つ目は、「ふるさとづくり大賞」の受賞団体の活動を紹介する映像の制作である。これについては、協議会の活動記録を15分程度のDVDとして制作するものであり、広報用としても活用できるものである。そのため、活動の様々な場면을撮影するものであるが、筆者が委託先の地域活性化センターには、「地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こし、それを活用した継続的で多彩で地道な活動を取材してほしい」と伝えていた。概ね、これに沿った形で撮影が進んだものと思われる。

また、ふるさとづくり大賞の受賞により、遠く青森県から県内40市町村の企画担当部署の若手職員約50名が、平成28年8月25日に協議会の取り組みを視察に来られたり、日本建築学会の九州大会に合わせて横浜から数名の学生が視察に来られた。その他、筆者が協議会卒業後も、いくつかの団体から視察の問い合わせが筆者にあった。このように都市景観大賞やふるさとづくり大賞の受賞は、全国的な情報発信につながっているのである。



協議会活動のPRの機会を増幅させた「ふるさとづくり大賞」の受賞

#### (5) まちづくりは志

最後になるが、地域に根ざしたまちづくり協議会に向けて、筆者からメッセージを贈りたい。これは、筆者の姪浜での10年間の活動に加え、都市景観室時代に直接関わった御供所や、先進都市調査で訪問してきた各地域の取り組みなどを踏まえたメッセージである。一つひとつの言葉の持つ意味をしっかりと考えていただき、高い志を持って姪浜のまちづくり課題に取り組んでいただきたい(コラム12)。

この中で筆者が特に伝えたいことは、「いろいろな地域課題に取り組むことを楽しみながら、粘り強く活動を進めていただきたい。達成感こそがまちづくりの楽しさである。そして、それが次第に地域に波及・浸透し、共感を得ていくのである。」ということである。

## コラム 12 地域に根ざしたまちづくり協議会に向けて

### ■組織の使命（ミッション）

地域の課題に真摯に取り組むことが、まちづくり協議会の使命であり、楽しさである。

### ■リーダー（役員）

まちづくり協議会のリーダーに求められるのは、「地域課題の的確な把握」と「総合的な判断力」である。

### ■会員（ヒト）

まちづくり協議会の会員に求められるのは、「高い志」「前向き思考」「包容力」「相手への配慮」である。

### ■地域資源（モノ）

今あるモノを活かすことが大事。新しいモノは要らない。

### ■ストーリー（コト、こだわり）

地域ブランドを構築するのは、「地域らしさ」「情報発信」「地道・粘り」「地域の共感」である。

### ■ドーパミンの出るまちづくり

協議会活動を活性化するのは、「チャレンジ」と「自省」である。

### ■協議会を超えた地域全体としての取り組み

地域は運命共同体。これからは各団体の枠を超えて地域課題に取り組む視点が重要である。



多くの関係者の協力を得て行われる「まちなみフォーラム福岡」の活動。大川、内野宿、津屋崎のフォーラムに参加したが、受け入れ先となる地域の各団体がしっかり連携して取り組んでいた。姪浜でも参考にさせていただきたい。

## 24 活動のポイントと継続的で多彩なまちづくり活動の成果

## (1) 活動のポイント（事務局長として工夫したこと）

筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会の事務局長として精力的に活動した期間は、平成19年3月～28年5月である。その期間は実に9年3ヶ月に及ぶ。協議会設立のための準備期間を含めれば、ちょうど10年である。10年にわたる活動の中で、事務局長として工夫したことは、次の点である。

①各段階の地域課題に対応した多彩なまちづくり活動を長期的展望に立って、段階的・継続的に進めてきた。

- ・ 1st ステージ～3rd ステージの課題に対応した目標設定及び具体的な活動の展開

②全国どこへ行っても同じような街並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、地域への誇りや愛着を育み、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台になると考え、各種事業を推進してきた。

- ・ 地域の魅力資源調査、まち歩きワークショップ、景観歴史発掘ガイドツアー
- ・ 伝統的な町家の評価、姪浜町家の認定
- ・ 身近なまちかど遺産（姪浜まちかど遺産）の評価

**④地域に埋もれている身近な歴史や物語（まちかど遺産）の掘り起こし  
⇒地域への誇りや愛着を育む土台**



例：興徳寺に伝わる「うさぎと龍の物語」



龍王館



姪浜駅前にあるモニュメント  
「Dragon King Rabbits」

③ヨソモン（地域外の間人）、ワカモン（若者）の視点を活用し、長く住んでいると見失いがちな地域の魅力を、外部や若者の新鮮な視点で伝えるよう努めてきた。

- ・ 地域外の間人や若者の視点を活用した地域の魅力資源調査
- ・ 九州大学との継続的な連携・協力（ワークショップ、景観づくり委員会への参加など）



ヨソモン(地域外の間人)、ワカモン(若者)の視点が重要

④地域のまちづくり・景観づくりの方向性を共有し、より実践的なものにしていくため、まちづくり計画や景観づくり計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性に努めてきた。

- ・住民参加のワークショップなどによる地域協働のまちづくりや景観づくり計画の策定
- ・地域内の関係団体、九州大学、行政などで構成する「景観づくり委員会」による景観づくり計画の策定
- ・活動成果のかわら版での公表、地域への発表会



ワークショップなどによる地域との対話

⑤各事業の実施に当たっては、地域内の関係団体、住民、商店、寺社などの協力を得ながら、お互いに連携して進めていくよう努めてきた。また、九州大学、行政などとの協働関係の構築にも努めてきた。

- ・各種町並みイベントへの協力、景観づくり委員会への参加
- ・九州大学主催の「都市・建築ワークショップ」への協力
- ・福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」の認定



大学、NPO、行政などとの連携

⑥姪浜らしさにこだわった多彩な町並みイベントの実施により、多くの参加者に地域の魅力を伝えることに努めてきた。

- ・コンサート、講演会、展示会など：公民館や市民センターを使用せず、手間暇と費用をかけても姪浜の魅力を伝える場所で実施
- ・景観歴史発掘ガイドツアー：歴史、物語、町並み（寺社、町家、路地、海）など、姪浜ならではの魅力を伝えるコースを設定



場所へのこだわりも重要

⑦各事業の実施に当たっては、マスコミに取り上げてもらえるような話題性のある活動内容に努め、姪浜の魅力や協議会の活動内容を地域内外に発信してきた。

- ・町並みイベント（景観歴史発掘ガイドツアー、まちなみ展示会、みそ蔵コンサート、灯明コンサートなど）
- ・印刷物（まち歩きマップ、かわら版など）
- ・具体的実践活動（町家再生の実践、旧町名表示板の設置、姪浜ブランド認定事業、姪浜町家認定事業、子ども落書き消し隊など）



マスコミに取り上げてもらえるような話題性のある活動内容に努めてきた。

⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用して、多彩な活動を展開してきた。

- ・まち歩きマップ、かわら版、景観づくりの手引きなど：原稿作成、写真撮影、デザイン、印刷まで会員の手作り
- ・まちづくり計画、景観づくり計画：まちづくりや都市景観、建築を専門とする会員が中心となって作成（ワークショップ、景観づくり委員会も運営）
- ・旧町名表示板、姪浜ブランド認定プレート、姪浜町家認定プレート：工作や書道の得意な会員の手作り
- ・市役所やまちづくり活動で培ってきた人的ネットワークの活用



会員の多様なノウハウ・スキルをフルに活用した事例

⑨その他

- ・それぞれの時期の課題や目標に沿った活動を推進するため、難関の全国区の助成金に積極的にチャレンジ・採択されることで、協議会活動を加速させてきた。
- ・各種表彰にも果敢にチャレンジ・受賞することで、姪浜及び協議会の名前を全国に発信してきた。



様々な賞の受賞により、姪浜及び協議会の名前を全国に発信

(2) 継続的で多彩なまちづくり活動の成果

①姪浜ならではの景観資源を活かした多彩な景観教育・普及活動

- ⇒ マスコミの取材回数の格段の増加
- ⇒ 来訪者の増加
- ⇒ 地域の魅力の再認識と地域内外への発信
- ⇒ 地域住民の地域への誇りや愛着の創出



マスコミの取材回数の増加 ⇒ 地域住民の地域への誇りや愛着の創出

②ヨソモンの刺激

- ⇒ 地元会員の増加
- ⇒ 活動の活性化

⇒ 大学、行政、NPO、他地域との協働・連携

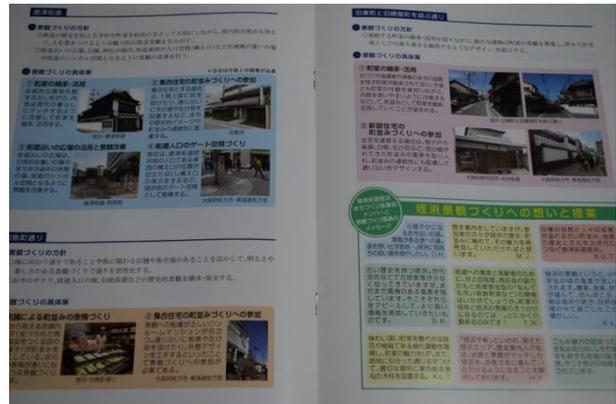
⇒ 活動の広がり

③住民参加のワークショップなどにより、地域のまちづくり・町並みづくりの総合計画となる『元気！姪浜計画』『景観づくり計画』を策定

⇒ 地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有



元気！姪浜計画



景観づくり計画

④まちづくり実践活動の展開

⇒ まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。



旧町名表示板



姪浜町家認定プレート



案内所の開設



子ども落書き消し隊

⑤自主的に景観形成に配慮した建築物などの増加

地域住民から「相撲甚句」や「史跡めぐりの歌」の贈り物

⇒ 地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開



地域の方に作っていただいた相撲甚句(左)と姫の浜史跡めぐりの歌(右)

⑥各種賞の受賞

⇒ 全国的な評価及び姫浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信



⑦姫浜での活動成果の発信

⇒ 身近な景観資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果 (今後期待)

- ・まちづくりの熱度に応じた多彩な活動の展開
- ・「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」

「参考資料3 姫浜プロジェクト48 (MPT48)」

## 25 新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策の提案

### (1) 新たな課題や動向

この10年間の活動で多くの成果を上げたが、その一方で、新たな課題や動向もある。以下は、筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会に在籍中に示したものである。

#### 姪浜を取り巻く新たな課題や動向

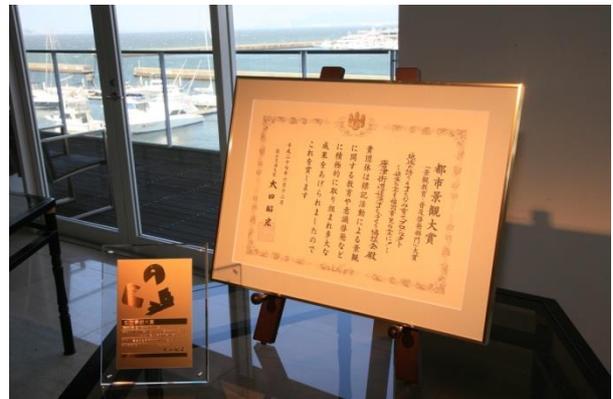
- ①「都市景観大賞」や「ふるさとづくり大賞」の受賞を次のステージにつなげる。
- ②姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失
- ③歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組み（歴史資源周辺区域での届出対象の拡大）との連携
- ④空き店舗の増加によるシャッター商店街化  
空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失
- ⑤新たな課題や動向、そして次のステージに向けた地域内の各団体の連携

### (2) 新たな課題や動向への対応

#### ①「都市景観大賞」や「ふるさとづくり大賞」の受賞を次のステージにつなげる。

全国的な賞の受賞は次のステージのスタートである。これは、姪浜という素晴らしい地域があつての受賞であり、これを励みとして姪浜地域全体として、姪浜ならではのまちづくりに向けて、各団体の垣根を超えて取り組んでいく必要がある。

平成27年6月の都市景観大賞受賞祝賀会での「地域の総力を挙げて、姪浜ならではのまちづくりを推進していきましょう」という気持ちを忘れずに、まちづくり活動に励んでいく必要がある。



都市景観大賞受賞

#### ②姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失

姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失を現実と受け止め、次のステージに向けて、地域内の各団体と協働で姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組み、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル（着地型観光）の定着を目指していく必要がある。

また、まち旅プロジェクト計画に取り組むことにより、コミュニティ交流や商店街活性化、

地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていく必要がある。



地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失

### ③歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組み（歴史資源周辺区域での届出対象の拡大）との連携

福岡市では歴史的景観を保護していくため、「御供所・冷泉地区」「舞鶴・大濠公園地区」など市内の5つの区域を歴史的資源周辺区域として指定し、平成28年10月からこれらの区域で景観づくりの取り組みを強化（届出対象建築物の拡大）している。そのうちの1つが唐津街道姪浜地区であり、筆者らのこれまでの取り組みの大きな成果である。

行政側の届出対象建築物の拡大だけでなく、これを機会に地域としても景観づくりの取り組みを進めていく必要がある。筆者が協議会在籍時に積極的に取り組んできた「姪浜景観づくり計画（景観づくりの手引き）」「姪浜景観まちづくり宣言」を地域にいかにか普及・浸透させていくのか、また行政と協働して具体的な景観づくりのルールをどのように策定していくのか、地域としてしっかり取り組んでいかないと、本当に個性のない普通のまちになってしまうであろう。姪浜の地域力が今こそ試されているのである。



福岡市内の5つの歴史的資源周辺区域  
(H27.9.1西日本新聞)



景観形成への配慮が求められる高層マンション群

### ④空き店舗の増加によるシャッター商店街化

空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失

空き店舗の増加によるシャッター商店街化は、姪浜に限らず全国的な課題である。空家も

少しずつ増えてきており、管理不全空家になる前に活用するなどの検討が望まれる。また、最近では駐車場やアパートの進出も著しく、町並みの連続性が損なわれ、個性のない町並みになりつつある。こうした課題に対して、まちづくり協議会が中心となり自治協議会、商店会などと連携して、地域として危機感を持って取り組んでいく必要があると思う。



空き店舗の増加



狭い路地沿いにもワンルームアパートの進出

### ⑤新たな課題や動向、そして次のステージに向けた地域内の各団体の連携

上記の①～④の新たな課題や動向にどう対処していったらいいのだろうか。まずは、地域内のそれぞれの団体の実情をしっかりと認識する必要があると思う。キーワードを少し挙げてみよう。

- 人（企画できる人、汗をかく人、時間を提供する人、後継者）はいますか？
- 活動資金はありますか？
- 後継者はいますか？
- 姪浜の現状に対する問題意識や危機感を持っていますか？
- 姪浜の将来像を描いていますか？
- 活動目標をしっかりと持っていますか？
- いろいろな組織との連携について考えたことはありますか？

筆者の挙げたキーワードについて、危機感を持って取り組んでいる団体は、どのくらいあるだろうか。各団体はそれぞれの目的を持って設立されたものであり、その枠の中だけの活動で精一杯であり、枠を超える活動はできていないと思う。しかし、『地域を元気にしたい』ということは共通目標として持っているはずであり、今後は各団体の垣根を超えて、ゆるやかに連携して地域の課題に取り組んでいく視点が大変重要になると思う。

### (3) 具体的な提案

#### ①「元気！姪浜計画」の着実な推進

筆者がまちづくり協議会在籍時に精力的に取り組んだ内容については、平成23年2月に作成した「元気！姪浜計画」に基づくものもあるし、既に先行していた事業をこの計画に取り込んだものもある。現在の地域の状況を踏まえ、「元気！姪浜計画」を見直す必要があるが、基本的にはこの計画に基づいて具体的な実践計画を立て、事業を進めていくことが望ましいと思う。

## 『元気!姪浜計画』（平成 23 年 2 月策定）における実現化方策の実施状況

『元気!姪浜計画』の基本方針と実現化方策		実現化方策の実施状況
<b>基本方針（1）広域回遊ネットワークづくり</b>		
実現化方策①	広域回遊ネットワークの設定	・ H22 年度に設定完了
②	「まち歩きマップ」の制作・配布	・ H22 年度に改訂版制作 ・ H25 年度に現在のまちマップ制作
③	広域回遊ネットワーク普及のための実践活動 ・ 回遊ネットワークを取り入れたまち歩きの実施 ・ 姪浜の個性である「海や港とまちのつながり」をアピールするまち歩きの実施	・ H23 年度から広域コースでのまち歩きも実施（小戸公園までを含むエリア） ・ H26 年度に「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」を実施
④	姪浜と能古島や小呂島とのつながりの活用	・ 未実施
⑤	案内板や標識などの改善計画の提案・推進	・ H23 年度から現況調査 ⇒ 景観づくり計画に反映
⑥	名柄川人道橋整備計画の推進	・ H22 年度に計画作成 ・ 今後、行政に働きかけ
⑦	レンタサイクルの導入の検討	・ 未実施
<b>基本方針（2）姪浜のまちの個性の再構築（住まいづくり・町並み景観づくり）</b>		
実現化方策①	町家保存・再生の推進	・ H21 年度からアドバイス開始 ・ H24 年度から「姪浜町家」認定事業開始
②	良好な住まいや町並みの再発見・再評価	・ H22 年度から実施
③	町並み景観計画の提案・推進	・ H23 年度に景観づくり委員会を組織し、段階的に「景観づくり計画」策定 ・ H26 年度に「景観づくりの手引き」作成
<b>基本方針（3）商店街の賑わいづくり</b>		
実現化方策①	若年層やファミリー層などへの「まち歩きマップ」の配布	・ H23 年度から実施
②	若い世代と地域住民との交流の場づくり	・ H22 年度から九大学生を対象に実施
③	商店街での小さな休憩コーナーづくり	・ H23 年度から実施
④	近隣農家や漁協などと連携した「市」の開催	・ 未実施
⑤	空き店舗を活用したチャレンジショップの導入	・ 未実施
<b>基本方針（4）姪浜ブランドづくり</b>		
実現化方策①	今ある名産品や優良な店舗の「姪浜ブランド」認定	・ H23 年度から実施
②	新たな「姪浜ブランド」づくり	・ 未実施
<b>基本方針（5）地域を知る場・機会づくり</b>		
実現化方策①	「姪浜学」講座の開催や「姪浜ものがたり」の発掘・継承	・ H24 年度から実施
<b>基本方針（6）環境にやさしいまちづくり</b>		
実現化方策①	地産地消の推進	・ 未実施
②	身近な水辺環境の再認識と保全・改善 ・ 広域回遊ネットワークの普及による水辺への関心や保全・改善意識の醸成 ・ 「港の歴史」や「博多湾の自然環境」を学ぶ「姪浜学」講座の実施	・ H23 年度から関係機関に協力する形で実施（松の植栽、博多湾調査） ・ H26 年度に「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」を開催
③	車に頼らないで暮らせるまちづくりの推進 ・ 広域回遊ネットワークを活用した「環境にやさしいまちづくり」	・ 未実施

## ②多彩な魅力資源を活用した「姪浜まち旅プロジェクト計画」の推進による、身の丈に合った観光スタイルの定着（地域の暮らしや人との出会い）

筆者が、協議会在籍中に精力的に取り組んできた「姪浜まち旅プロジェクト計画」には、多くの楽しいアイデアやヒントを盛り込んでいる。久留米市や柳川市では市単位で実施しているが、姪浜だけでも多くのプロジェクトが可能である。この計画をブラッシュアップするとともに、地域全体で取り組んでいただきたい。それが身の丈に合った観光スタイルの定着につながるし、地域の暮らしや人との出会いにもつながっていくものと確信している。



姪浜まち旅プロジェクト計画

## ③景観づくりの地域への普及と実践

「元気！姪浜計画」の中で重点事業と位置付けている景観づくりの取り組みについては、「姪浜景観づくり計画STEP1、2」及びそれを踏まえた「姪浜景観づくりの手引き」として作成したが、地域への普及活動はほとんど進んでいない。この手引きをしっかりと活用して、地域を巻き込んだ取り組みを進めていく必要がある。

そのためには、まずは協議会会員がもっと景観づくりに関心を持つべきである。例えば、いろいろな地域に出かけ、それぞれの地域の魅力を感じ、その地域の方々と交流・対話することも必要だと思う。姪浜とは置かれている状況は異なるが、それぞれの地域を参考にしながら「姪浜の魅力資源をどのように活用していくのか」についてしっかり考えていくことが必要である。その地域や場所でしか体験できないことを体感し、考えることが、次の地域づくり・景観づくりにつながるのである。

そして、忘れてはいけないことは、唐津街道姪浜まちづくり協議会は博多部の御供所まちづくり協議会に続き、福岡市内で2番目に福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」に認定されていることである。福岡市では歴史的景観を保護していくため、唐津街道姪浜地区を歴史的資源周辺区域として指定し、平成28年10月から景観づくりの取り組みを強化（届出対象建築物の拡大）している。これと連携した取り組みを協議会が主体となり、地域を巻き込んで進めていく必要がある。

また、筆者が平成23年度に提案し、27年度の街なか再生助成金（区画整理促進機構）の採択により、ようやく実現した暖簾設置事業についても、賛同者を増やしながら少しずつ進めていったらいいと思う。景観づくりは目に見える取り組みが一番効果的である。



姪浜景観づくりの手引きの活用



先進都市視察



景観づくり地域団体の認定(平成22年3月)



暖簾設置事業(京都市西陣大黒町の事例)

#### ④空き店舗や空家の活用に向けた地域としての取り組み

空き店舗や空家の活用について、まず、協議会や地域で取り組むことは、空き店舗や空家の存在が、姪浜のまちづくりにとって何が問題なのかを認識する必要がある。問題点や課題を把握した後は、空き店舗や空家の実態調査を行うことが望ましい。最初は詳細な調査ではなく、まち歩きをして、それを地図に落とし込むぐらいの全体把握程度の調査で構わない。

また、協議会が空家活用のコーディネーター的役割を担い、空家所有者や空家活用希望者から相談があった場合に、貸したい人と借りたい人の中に入り、活用方法などについて具体的に提案していくことや、そうした人材を育てることも今後の協議会の役割であると思う。空家活用プロジェクトもその一例である。



空家の実態調査



空家活用プロジェクト

### ⑤地域づくり資源の物語化

姪浜には多くの歴史や魅力資源がある。こうしたことを「姪浜読本」として作成・発行して、地域の方々や子どもたちにわかりやすく伝えていくことを提案する。目に見える特徴が失われつつある姪浜において、読み物としてわかりやすく伝えていくことは、大変意義のあることである。その参考になるのが小布施や田主丸の地域読本である。



小布施の魅力やまちづくりを紹介した「遊学する小布施」



浮羽、吉井、久留米耳納の伝承や昔話を集めた「みのうの豆本」

### ⑥全国に誇る身近な歴史資源を活用した環境保全活動

筆者は福岡市都市景観室在籍中の平成8年頃から、眺望ポイント（視点場）にも関心を持っていた。姪浜周辺を広域的に見ると「福岡タワー」「愛宕神社」「能古島」という3つの眺望ポイントが存在する。こうした3つの視点場から見る福岡市のコントラストのある景観は魅力的であり、福岡市の都市形成の歴史を垣間見ることができる。今後も眺望景観という視点を大切にしていきたいと考えている。



福岡タワーから姪浜方面を見る



愛宕神社から博多湾を見る



能古島から市街地を見る

これを姪浜地域内で見てみると、鎌倉時代からの歴史のある3つの丘（探題塚、興徳寺山、丸隈山）がある。このうち、興徳寺山はお寺で整備中であり、丸隈山はボランティアの皆さまが草刈りや清掃をしている。しかし、探題塚は全国に誇る歴史資源でありながら、この存在を知る人はほとんどいない。また、境内は手入れされているが、その奥は姪浜や博多湾を一望できる場所にありながら、やぶ山のようにっており、足の踏み場もなく、極めて閉鎖的な状況である。

### 3つの丘（探題塚、興徳寺山、丸隈山）の位置



3つの丘（探題塚、興徳寺山、丸隈山）の位置

### 探題塚の概要

探題塚は鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所であり、鷲尾城（現在の愛宕山）や防塁を築造したり、点検報告を各守護にさせていた。初代探題が北条時定であり、弘安5年（1282年）以降姪浜浦山館（万正寺山）でその任務に当たった。その後、足利一族が探題となり、幕府の任命する最後の探題・渋川堯頭は、ここ万正寺山で戦死した（1534年頃）。この堯頭を葬ったのが探題塚である。

即ち250年の長きにわたって防塁を構築し、外敵の侵攻から日本の国土を護ってきたものであり、姪浜は日本の国防の第一線であった。

そのため、身近にある探題塚という歴史資源にスポットを当て、子どもたちや地域住民の環境学習や歴史学習の場として活用させていただき、地域に開かれた開放的な空間づくりを通して、地域への誇りや愛着を醸成していくものである。歴史的故事を有する興徳寺山、丸隈山と合わせて、将来的には3つの丘による新たな歴史回遊ネットワークを構築できる。

また、姪浜には鎌倉時代に限っても、探題塚だけでなく、元寇防塁跡、元寇の時代からの歴史のある興徳寺など、全国に誇れる身近な歴史資源が数多くあるが、こうした活動がきっかけとなり、歴史資源のネットワーク形成及び歴史まちづくりの推進に大きく寄与できるのではないかと考えている。

探題塚の現況



探題塚のある方正寺山



探題塚に行く階段



探題塚（ここまでは手入れされている。）



探題塚の一角にある埴安神社



探題塚の奥。やぶ山のようになっており、足の踏み場もない状況である。



枝を剪定すると、経浜の市街地や博多湾が一望できる。



釜状穴のある大きな石も存在する。古くから信仰の場所であったと思われる。

活動イメージ



探題塚に関する調査、ワークショップ



樹木の伐採



枝の剪定



草刈り



散策路整備



一環境学習を終えて、参加者で記念撮影

子どもたちや地域住民による環境学習の実践（地域に開かれた開放的な空間づくり）

活動イメージ



完成記念披露式（桜の苗木植栽、感謝状・記念品贈呈等）



探題塚 PR イベント（まち歩きイベント、お花見コンサート）



「まちづくり互援」による地域への活動報告

活動後のイメージ



境内と一体となった見通しのきく開放的な空間へ



将来イメージ



経浜の市街地や博多湾を一望できる展望空間へ（※写真は他の場所からの眺望事例です。）



経浜の桜の名所へ



経浜の市街地や博多湾を一望できる展望空間へ（※写真は他都市の事例です。）

探題塚の現況、活動イメージなど

## 26 公務員や建築士の地域のまちづくりへの関わり方の提案

筆者は、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある。公務員や建築士の地域のまちづくりへの関わり方について、これまでの執筆文を紹介することで提案としたい。筆者のまちづくりへの想いをいくらかでも感じていただけたら幸いである。

### （１）地域に飛び出す公務員としての提案

これは、月刊誌「地方自治職員研修」（2015年1月号）の「進行形！景観まちづくり」というコーナーでの筆者の執筆文（抜粋）である。

#### **取り組みのポイント～人を活かす、資源を活かす～**

（前略）

このようにまちづくりの各段階に対応した多彩な活動を、協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用しながら、また関係団体、九州大学、行政、NPO等と協働で進めています。私も、福岡市職員として培った専門性と企画力、人的ネットワーク等を存分に活用し、会の事務局長として力を発揮しています。特に公務員が長じるスキルである「各段階の課題に対応して段階的・長期的視点で取り組むこと」「職業・性格・意見の異なる十人十色の会員をまとめること」はまちづくりの現場で活かされています。

また、全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、「何これ！」と思うような地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考えており、景観行政の経験を存分に発揮できる場面でもあります。

#### **地域内外からの反応・反響**

こうした活動による地域住民の反応ですが、「地域への誇りや愛着の創出」「活動の広がり」「地域の歴史・文化・暮らしを踏まえた、まちづくりや景観づくりの方向性の共有」「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成」「双方向のまちづくりへの展開」につながっています。それを裏付けるものとして、例えば、地域住民から姪浜の魅力を「相撲甚句」や「史跡巡りの歌」にさせていただいたり、また、古民家の再生事例や自主的に景観形成に配慮した建築物等の事例が着実に増えています。

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、「姪浜の魅力の全国へのPR」にもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、「身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果」も大いに期待できると考えています。

#### **自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！**

私はこの活動に業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく公務員冥利に尽きます。

私のような一職員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。読者の皆さま方も仕事や家庭の事情もあると思いますが、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上しますし、それを自分自身にフィードバックすることで公務員生活や定年後の生活

にも役立つと確信しています。

---

**参考資料4 「進行形！景観まちづくり～歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり～」**

(月刊「地方自治職員研修」2015年1月号)

**(2) 建築士としての提案**

(公社)日本建築士会連合会の会誌「建築士」(2015年3月号)の「建築士会まちづくり賞受賞」のコーナーでも執筆した。先程の公務員としての執筆とほぼ同時期のものであり、内容はほとんど変わらないが、その一部を紹介したい。

---

**継続的で多彩な活動内容**

(前略)

このように、まちづくりの各段階に応じた多彩な活動を牽引しているのが、私をはじめとした数名の建築士です。全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考えており、建築士としての専門性を存分に発揮できる場面です。「それぞれの地域の歴史や空間特性をしっかりと把握し、ここでしかできないことを形にしていく」、このこだわりが建築に携わる者としての原点であり、私たち建築士の使命だと思います。

**地域内外からの反応・反響**

(中略)

私のような一建築士や一公務員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。建築士として様々な形で建築に向き合っている読者の皆さま方も、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上し、それを自分自身にフィードバックすることで今後の業務や定年後の生活にも役立つと確信しています。

(後略)

---

少し補足説明をしたい。筆者は姪浜で「地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こしこそが、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台となる」ということを常に発信してきたが、その場所の地域特性や空間特性をしっかりと読み取り、設計に反映していくことが建築士の役割であると考えている。地域づくりや景観形成づくりにおいて、建築士に求められる役割は大きいのである。

---

**「参考資料5 地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～」**

(日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号)

## 27 卒業後

## (1) 地域づくりを巡る小さなまち旅

筆者は、平成28年5月31日付けで唐津街道姪浜まちづくり協議会を卒業したが、既に4月上旬に卒業の意思を固めていた。その時に考えていたことは、地域づくりを巡る小さなまち旅である。市内でもいいし、市外、県外でもいい。いろいろな場所を旅することは、地域づくりを考える上で大いに参考になる。そして、新たな出会いもある。姪浜という狭いフィールドを離れ、大きな視点で地域づくりを考えよう。筆者の新たな一歩が始まったのである。

姪浜での活動の目途が見えてきた平成28年3月以降に訪れた主な場所は、次のとおりである。これは、10年間の活動を振り返る旅であり、自分を見つめ直す旅でもある。初めての場所もあるし、思い出の場所もある。大学の卒業研究に関わった場所もあるし、建築を志した時期に訪れた場所もある。観光で訪れた場所もあるし、出張や視察で訪れた場所もある。テーマは地域づくりの勉強でもいいし、建築の勉強でもいい、人との出会いでもいい。何か感じ取ることができれば、それで十分なのである。

この10年間はどっぷりと姪浜の活動に浸っていたが、協議会を離れて見えてくるいろいろな物や考え方、いろいろな地域の取り組みを学ぶことを大切に充電期間を過ごしている。まちづくりに関わる人は、外の風や空気に触れることが必要だと改めて痛感している。

## 【10年間の活動及び自分を見つめ直す小さなまち旅】

年 月	主な訪問先
平成28年3月	■山鹿（八千代座、さくら湯）⇒南阿蘇村（思い出のペンション、免の石） ⇒阿蘇（阿蘇神社、草千里）
4月	■南阿蘇村（一心行の桜）⇒熊本（熊本城）
5月	■別府（上人ヶ浜温泉）⇒大分（大分県立美術館）⇒宇佐（宇佐神宮） ■東京（代官山、表参道、銀座、東京ミッドタウン、豊洲）
6月	■熊本（熊本城、熊本大学）
7月	■宇城（三角西港） ■長崎（出津教会）⇒雲仙（温泉）⇒天草（崎津教会）
8月	■波佐見（中尾山、モンネルギザムック） ■益城町（地震被害）⇒南阿蘇村（地震被害、思い出のペンション） ⇒阿蘇（孤風院、阿蘇神社）⇒久住
9月	■津屋崎（津屋崎千軒、新原・奴山古墳群）
10月	■東京（町屋、南千住、浅草、上野）
11月	■佐賀（バルーンフェスタ、古湯、三瀬） ■宗像（宗像大社）⇒津屋崎（新原・奴山古墳群、宮地浜）
12月	■熊本（熊本城、水前寺公園、夏目漱石旧居、新町・古町） ■唐津（旧高取邸、旧唐津銀行、唐津城）
平成29年1月	■北九州（北九州市立中央図書館、文学館）
3月	■東京（神楽坂、御茶ノ水、神田、六本木、銀座）



出津教会



出津集落



崎津教会



崎津集落



波佐見集落



波佐見モンネルギザムック



旧高取邸



旧唐津銀行

## (2) 思い出の場所再訪

この中で、筆者が再訪した思い出の場所をいくつか紹介したい。それは、平成 28 年 5 月に訪れた東京の代官山、表参道、7 月の宇城の三角西港、8 月の阿蘇の孤風院、10 月の東京の町屋である。いずれも第一章で紹介した場所である。

### 【代官山】

槇文彦氏設計の代官山ヒルサイドテラスは、大学時代から有名であったが、最初に訪れたのは鴻池組時代である。その後、平成 26 年に建築や都市を学ぶ長男と再訪。槇さんのプロジェクト以外にも、同潤会アパートを建て替え・再開発された代官山アドレス（高層マンション、ショッピングセンター、スポーツプラザ、公園）や代官山 T-SITE（蔦屋書店を中核とした生活提案型商業施設）などのプロジェクトが完了し、大きな変貌を遂げていた。

再度訪れた平成 28 年 5 月には、大きな変化はなかったが、タブレットで撮影した写真に市川海老蔵さんとお子さんが写っていた。偶然である。撮影した時には気付かなかったが、後で長男が「この人海老蔵だよ」と教えてくれた。ランニングの最中であったようだ。瀟洒な街・代官山には多くの芸能人が住んでいるのだろう。



昭和 55 年頃の代官山ヒルサイドテラス



平成 28 年の代官山ヒルサイドテラス



代官山 T-SITE(平成 28 年5月)



代官山アドレス(平成 28 年5月)

### 【表参道】

鴻池組時代に見学したのは、当時の建築雑誌に掲載されていた山下和正氏設計のフロム・ファースト・ビルと現代建築研究所設計のヨックモック本社ビルである。その後、平成 26 年に長男と再訪。とても懐かしく思った。フロム・ファースト・ビルは、中庭と吹き抜けを取り入れ

た筆者の好きな建築の一つである。安藤忠雄氏設計の表参道ヒルズや多くのブランドのお店の進出により、さらにお洒落な街になっていた。隈研吾氏設計の根津美術館にも行ったが残念ながら休館中であった。

平成 28 年 5 月には、表参道ヒルズや前回は行けなかった根津美術館を中心に歩いて回った。根津美術館は、和風の要素を取り入れた隈さんらしい作品である。庭もきれいに手入れされており、外国人も多く訪れていた。平成 25 年度以降は、隈さんの作品を見る機会が多く、長岡市シティホールプラザアオーレ長岡、浅草文化観光センター、長崎県立美術館、サントリー美術館などを訪れた。



昭和 55 年頃のフロム・ファースト・ビル



現在のフロム・ファースト・ビル(平成 28 年 5 月)



表参道ヒルズ(平成 28 年 5 月)



根津美術館(平成 28 年 5 月)

### 【三角西港】

大学を卒業して 36 年後の平成 28 年 7 月 3 日に久しぶりに三角西港を訪問した。石積みの埠頭や水路は当時とほとんど変わらないが、昭和 62 年の築港 100 周年を期に、当時の建造物の復元や周辺の公園整備も行われ、観光地としても賑わいを見せていた。小説家・小泉八雲（ラスカディオ・ハーン）ゆかりの旅館・浦島屋、倉庫を改修したカフェなど明治の面影を残す建物が印象的である。

大学時代にはだれ一人として観光を訪れる者はいなかったが、国の重要文化財や世界文化遺産に登録されたこともあり、雨天にも関わらず多くの観光客が訪れていた。エピソードになるが、20 年近く使っている腕時計の針が、三角西港を訪れた時に突然止まった。まるで 36 年前にタイムスリップしたかのように（再掲）。



大学時代に研究していた頃の三角西港(昭和 57 年2月。大学を卒業して2年後の写真)



現在の三角西港(平成 28 年7月)

### 【孤風院】

孤風院は、明治 41 年（1908 年）熊本高等工業学校の図書閲覧室（講堂）として建てられた熊本を代表する洋風木造建築であったが、昭和 51 年（1976 年）老朽化による解体決定に伴い、当時熊本大学助教授であった木島安史先生が買い取り、現在の地（阿蘇）へ移築し、住居として平成 3 年（1991 年）まで利用されていた。移築後は住みながら作り続けられ、木島先生が亡くなった現在は、木島家の別荘としての利用のほか、「孤風院の会」によってメンテナンスを含めた建築教育活動の場として利用されている（再掲）。

孤風院を訪問するのは、熊本地震後の平成 28 年 8 月が最初である。大学時代には、木島先生の話は聞いていたが、訪れるのは今回が初めてである。木島先生の手記「孤風院白書」は鴻池

組時代から何度も読み感銘を受けていた。内部は見ることはできなかったが、外から見る限りは大きな損傷はなかったようだ。一安心である。

木島先生の想いを受け継いだ建築を訪問することで、建築や地域づくりへの想いを新たにしたい。同行した長男にも筆者の想いは伝わったと思う。長男は普段は CAD ばかり使っているようであるが、筆者は木島先生の建築に込める想いを伝えたかった。



孤風院白書

孤風院(平成 28 年8月)

### 【荒川区町屋】

町屋は、筆者が鴻池組時代に約3年間住んでいた場所である。町屋は下町であり、古いコミュニティが息づく地域で、昔ながらの銭湯やお店もあった。もんじゃ焼きのお店も多かった。毎日の夕食は町屋駅周辺で外食。駅前の定食屋さんや高架下のラーメン屋さん、住宅街にある中華料理屋さんによく通ったものである。

平成28年10月末に南千住に行く機会を利用して30年振りに寄ってみた。都電や高架下のある風景はあまり変わっていなかったが、駅周辺や幹線道路沿道には高層のマンションが建ち、様変わりしていた。一步路地に入ると昔の名残は感じられたが、筆者がよく利用したお店や銭湯などは大半がなくなっていた。土曜日の昼過ぎであったが、人通りもほとんどなく、寂しい印象を受けて帰った(再掲)。

よく考えてみると、筆者が高校卒業後に一人で住んだ地域は、熊本市黒髪(4年)、荒川区町屋(3年)、福岡市唐人町(1年)であり、いずれも歴史やコミュニティ、路地が息づく地域である。姪浜も含めて、こうした界隈性のある地域が以前から好きだったのかも知れない。



30年振りの町屋(平成28年10月)

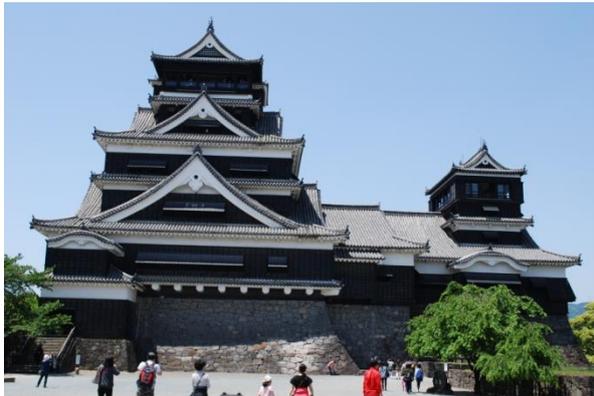
### (3) 熊本地震と筆者

筆者は、熊本地震前の平成 28 年 3 月下旬～4 月上旬に熊本、阿蘇、別府などを旅している。この時に熊本県内で訪問したのは、平成 12 年から毎年のように通っている南阿蘇村のペンション、阿蘇神社、一心行の桜、免の石、熊本城などであり、2 回の訪問で阿蘇大橋も 4 回渡った。

その後の 4 月 14 日と 16 日の震度 7 の熊本地震で、行った先々の場所が大きな被害を受けた。信じられない光景がテレビに映し出された。筆者は現在、耐震関係の仕事もしていることもあり、また、大学時代を熊本で過ごしたこともあり、今回の熊本地震はとても考えさせられるものがあった。

筆者は熊本地震後、大学時代の思い出の多い熊本のことを気にかかり、積極的に熊本に出かけている。被害を受けている今の熊本の状況をしっかり目に焼き付けておきたいからである。その中でも、熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、そして益城町や南阿蘇村の住宅の被害はとても痛ましいものがあった。主要な観光地を結ぶ道路も閉鎖され、観光客も激減している。春とは違う光景が広がっていた。

しかし、これを現実と受け止め、未来に向けて、前向きに考えていかなければならない。これから長い時間をかけて熊本が復興されていく中で、その過程を見に何度も訪問したいと考えている。熊本城の復興には 20 年かかると言われている。筆者は現在 59 歳であり、熊本城が復興される頃には 80 歳近くになっている。今後は、熊本城の復興を見届けることを目標に生きていきたい。阿蘇神社の再建にも長い時間を要すると思われるが、その過程も見届けたいと思う。



熊本城(地震前)



熊本城(地震後)



阿蘇神社(地震前)



阿蘇神社(地震後)



阿蘇大橋の崩落



益城町のアパートの倒壊

折しも平成 28 年 8 月上旬に、熊本地震前に制作された映画「うつくしいひと」の上映会が福岡市内であった。熊本城、夏目漱石旧居、江津湖、菊池溪谷、草千里、通潤橋といった熊本の名所の地震前の姿が映し出された。こうした名所が、また元の姿に戻るよう願ってやまない。そして、復興の過程を定期的に見に行くことを、今後の楽しみにしていきたいと思う。



草千里(平成 28 年 3 月。50 年振りの野焼き後)



通潤橋(平成 26 年 3 月)

ところで、筆者がこの頃の想いを 4,500 字程度のエッセイとして書いたものがある。これは、「第 12 回 JTB 交流文化賞 交流文化体験賞 一般部門」に応募したものである。熊本復興への強い想いを込めている。

**「参考資料 7 熊本地震と私～オオクワガタから始まった旅は復興へと向かう旅へ～」**

(2016 年 第 12 回 JTB 交流文化賞応募作品)

#### (4) 姪浜での活動の振り返り (活動記録作成)

地域づくりを巡る小さなまち旅と並行して進めていったのが、今書いているこの「活動記録」である。冒頭書いているように、今までの事務局長としての活動記録をまとめ、家族やお世話になった方々に筆者の姪浜への想いを伝えていくことにしたものである。この中では、協議会活動の 10 年間だけでなく、大学時代からの建築や地域づくりへの想いも振り返りながら、地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりについても考えていくこととした。

協議会卒業直後の平成 28 年 6 月から書き始め、この段階を書いているのが平成 29 年 2 月である。ここまで辿り着くのに 8 ヶ月程かかった。「週末トラベラー&ライター」の生活であり、活動記録を書く時間は限られているが、もう一踏ん張りしたい。



久しぶりの三角西港訪問(A列車にて)



筆者が関わってきた様々な資料をもとに活動記録作成

充電期間中の週末はトラベラー&ライターの生活

#### (5) 姪浜や市役所での経験を活かせ

「地域づくりを巡る小さなまち旅」や「活動記録」は、今までの姪浜での活動の振り返りとともに、今後何らかの形で地域活動や定年後の生活に役立てていきたいという趣旨もある。そして、公務員や建築士としての経験を地域活動に活かさないかということもある。今後の具体的なプランはないが、前に紹介した日本建築士会連合会の会誌「建築士」の中で筆者は次のように述べている。

私のような一建築士や一公務員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。建築士として様々な形で建築に向き合っている読者の皆さま方も、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上し、それを自分自身にフィードバックすることで今後の業務や定年後の生活にも役立つと確信しています。

また、市役所で経験した業務の中で、今後の活動に役立ちそうなのは「都市景観」「耐震」「空家対策」などの他、都市科学研究所での「広域連携」などの研究であろうか。他都市調査を通じて、いろいろな地域の景観やまちづくりの取り組みも調べることもできた。これに姪浜での約 10 年間の精力的な活動を組み合わせれば、定年後もいろいろなことができるのではないだろうか。

筆者が協議会を卒業する時に、ある知人が「市役所でのいろいろな経験、そして 10 年にわたる姪浜での地域づくりの経験を活かして、姪浜という狭いフィールドではなく、もっと広いフィールドで活躍してほしい」ということを話してくれた。

そして、平成 28 年 4 月の熊本地震の影響も大きい。大学時代を過ごした熊本の甚大な被害は、耐震の仕事もしている筆者にとっては何かの運命である。今までの経験を活かして熊本に恩返しをしたいと思うのも当然のことである。こうしたことを踏まえ、この活動記録を書きながら今後のことも考えていきたい。

この活動記録の最後の段階を書いている時に、日本住宅公団（現 UR 都市再生機構）で高蔵寺ニュータウンの設計などを担当されていた津端修一さんと奥様の英子さんのドキュメンタリー映画『人生フルーツ』を見る機会があった。高蔵寺ニュータウンで実現できなかった「雑木林のあるまち」「風の通るまち」を、自分の住宅の中で地道に取り組んでいる姿に深い感銘を覚えた。また、この映画の中で現代建築の巨匠の名言も登場する。

- ル・コルビュジェ『家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない』
- アントニオ・ガウディ『すべての答えは、偉大なる自然のなかにある』
- フランク・ロイド・ライト『ながく生きるほど、人生はより美しくなる』

建築家の村野藤吾氏の『建築らしいものを創り出したのは 60 歳を過ぎてから』という言葉と合わせて、今後の筆者の生き方の参考にしていきたい。

## おわりに

この活動記録は、唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業を機会に、家族やお世話になった方々に筆者の姪浜への想いを伝えようと書き始めたものである。しかし、書き進めていく中で、姪浜での10年間の活動の成果と反省を、今後何らかの形で、いろいろな地域での身近なまちづくりの推進に活かしていただきたいと考えるようになった。

そのため、10年間の活動を振り返るだけでなく、今まで訪問してきたいろいろな地域の取り組みも踏まえ、「今後の姪浜のまちづくりの展開方策」「公務員や建築士の地域のまちづくりへの関わり方」などについても提案させていただいた。また、活動期間中の筆者のその時々々の想いをコラムや執筆文として紹介させていただいた。姪浜の関係者だけでなく、各地域でまちづくりに関わる方々に参考にしていただければ幸いである。

今回は、姪浜での活動を中心とした活動記録という形にとどまったが、今後、機会があれば、これをブラッシュアップするとともに、今まで訪問してきた各地域の取り組みを調査・分析して、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究」という内容で研究を進めていきたいと考えている。

最後になりますが、この10年間は、唐津街道姪浜まちづくり協議会の関係者だけでなく、地域内外の多くの方々からご支援とご協力をいただきました。お世話になったすべての方々はこの場をお借りして感謝の意を表します。

また、今回、筆者のとりとめのない活動記録を会員研究として認めていただき、ご支援いただきました(公財)福岡アジア都市研究所の皆さま方に謝意を表します。

平成29年3月（活動記録のゴール）

(公財)福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)  
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長  
大塚政徳

**【連絡先】**

〒819-0013

福岡県福岡市西区愛宕浜 2-3-2-601

TEL & FAX : 092-882-3831

携帯 : 090-7929-7758

e-mail : la-mound.m.63@iwk.bbiq.jp